

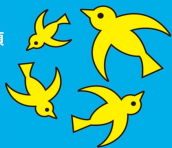
資質・能力への理解を深め、  
幼児一人一人の学びを支える職員の資質向上を目指す

～ 神戸大学附属幼稚園の研究開発学校の取組への  
研究協力を職員研修に位置付けて ～

神戸大学附属幼稚園 園長・副園長

神戸大学附属小学校 校長 田中 孝尚

tanaka4@kobe-u.ac.jp



## 研究開発学校と学習指導要領

令和6年

文部科学省初等中等教育局教育課程課

文部科学省

### 近年の取組について

設置重視した新教科等の  
① 資質・能力の育成を

- 6つの資質・能力を育成するための「6領域」と各領域での学びを統合する領域の設置（上越市立大手町小学校）
- これからの時代に求められる力を育成するための教科「未来志向科」※の設置  
※「情報」「産業」「環境」の3つの領域でそれぞれ今日的課題を設定（映像メディア、金融のしくみ、まちづくり等）して学習内容とし、主に探究的な学習に取り組む。（香川大学教育学部附属高松中学校）等

② 既存教科の  
発展・再編

- 小学校第3学年からの英語教育（埼玉県深谷市）
- 小学校第1学年からの英語教育（多治見市立笠原小・中学校）
- 高等学校の地理歴史科の再編による「歴史基礎」「地理基礎」の設置（日本橋女学館高等学校）等

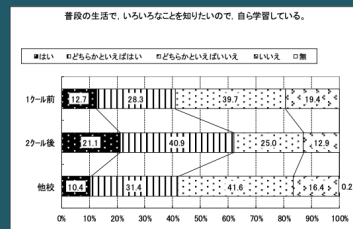
③ 学校段階間の  
連携

- 幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する研究（神戸大学附属幼稚園）（尾道市立中庄幼稚園）等
- 小中高が連携した環境教育プログラムの開発（北海道鹿追高等学校 外7校）等

### （取組から得られたデータ例）

#### 香川大学附属高松中学校（資質・能力の育成、平成20～22年度）の取組

平成22年度 質問紙調査（報告書より作成）  
（学習意欲、好奇心・探究心等について、授業実施前後の比較結果）

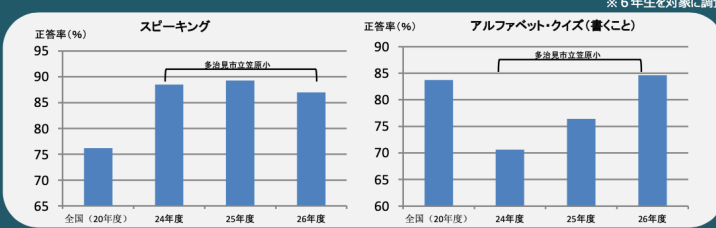


（参考）平成26年度全国学力・学習状況調査（質問紙調査）より  
・「家で自分で計画を立てて勉強をしている」という事項に肯定的に回答している生徒の方が、全ての教科で平均正答率が高い傾向が見られる。

選択肢	当該選択肢を選んだ生徒の平均正答率(%)			
	国語A	国語B	数学A	数学B
①している	83.2	57	74.3	67
②どちらかといえば、している	81.8	53.9	71.1	63.8
③あまりしていない	79.2	50.2	66.2	58.8
④全くしていない	74.6	45.2	59.7	51.9

#### 岐阜県多治見市立笠原小・中学校（小学校第1学年からの英語教育、平成24～26年度）の取組

国立教育政策研究所「小学校における英語教育の在り方に関する調査研究」（報告書より作成）  
※6年生を対象に調査



#### 神戸大学附属幼稚園（幼小連携、平成22～24年度）の取組

平成24年度 質問紙調査  
（附属小への内部進学者・外部進学者別平均値比較結果）

	内部進学者	外部進学者
・人の気持ちを聞いたり周りの状況を見たりして、自分勝手なことを言わない・しない	3.21	2.78
・新しい環境の中でも（なんとか）落ち着いている	3.66	3.09

※評価は「4:よく見られるようになった」「3:時々見られるようになった」「2:あまり見られない」「1:まったく見られない」で実施。  
※小学校1年生担任による評価である。（報告書より作成）

実証的資料を得ること【成果①】

次期改訂に生かすこと【成果②】

# 文部科学省 研究開発学校としての取組より (平成12年度以降を抜粋)

平成12年度より、一貫して、事実に基づく子どもの学びを基にしたカリキュラム開発を継続

<p>【令和6～9年度】</p>	<p>文部科学省 研究開発学校 幼稚園教育要領における5領域の構成と要領上の用語の不一致が、小学校教師の幼児教育への理解を停滞させている一因と考える。そこで、<b>領域の枠組みを資質・能力の観点から再編し、要領上の用語の整合性を図る</b>ことにより、幼小双方の教師の理解を促進し、幼小の接続を推進するカリキュラムと指導方法の研究開発を行う。</p>
<p>【平成29～31年度】</p>	<p>文部科学省 研究開発学校 幼稚園と小学校の円滑な接続に資する、子どもの学びに着目した、幼児教育と小学校教育9年間を一体としてとらえた教育課程の大綱となる「<b>初等教育要領</b>」の充実</p>
<p>【平成25～28年度】</p>	<p>文部科学省 研究開発学校 幼稚園と小学校の円滑な接続に資する、子どもの学びに着目した、幼児教育と小学校教育9年間を一体としてとらえた教育課程の大綱となる「<b>初等教育要領</b>」の開発</p>
<p>【平成22～24年度】</p>	<p>文部科学省 研究開発学校 幼稚園教育と小学校教育の接続期における円滑な接続のための<b>新分野創設</b>に向けたカリキュラムと指導方法等の研究開発</p>
<p>【平成12～14年度】</p>	<p>文部科学省 研究開発学校 社会を創造する知性・人間性を育むことをめざした新しい教育システムの開発</p>

子どもの学びを見取る観点としても、ねらいの観点としても使いやすく、小学校の教師にとっても理解しやすいカリキュラムをめざし、神戸大学附属幼稚園の詳細な資質・能力の具体を、文部科学省が示している資質・能力の観点から再整理。

**9年間を一体として捉えた教育課程の大綱となる「初等教育要領」の開発と充実を進め、「資質・能力カリキュラム」を提案** (『新神戸大学附属幼稚園プラン』)

※本プランは、資質・能力のフィルターを通して、「10視点カリキュラム」を見直したものであり、詳細な資質・能力の観点を有するカリキュラムである。なお、開発・充実した本園の教育課程及び指導計画は、実践データとしての実践記録及びドキュメンテーション等を根拠としたカリキュラム・マネジメントの過程までも公開。カリキュラム・マネジメントを継続し、保育者の資質向上と保護者の幼児教育への理解促進を同時に実現する仕組みをあわせて提案。

**10の方向と40の道筋で幼児教育を可視化し、幼小をつなぐ幼児期のカリキュラムを提案** (『神戸大学附属幼稚園プラン』)

※10視点により幼児期の教育においてめざす方向を示し、40下位項目という詳細な観点毎に、入園から修了までの3年間の子どもに期待する学びの道筋を、ねらいの道筋として示し、「10視点カリキュラム」の取組を深める。日本の幼児教育現場において実現可能な様々なドキュメンテーションの取組も提案。

**幼稚園入園から中学校卒業までの子どもの学びの過程を整理し「学びの一覧表」を作成**

※「学びの一覧表」とは、本校園の幼小中の全教師が、日々の実践から「子どもの事実」、「解釈」、「学び」を「学びのカード」に書き綴り、3歳(幼稚園年少児)から14歳(中学校3年生)までの総数約6,000に及び「学びのカード」を分類・整理し、ボトムアップで一覧表にまとめていったものであり、本校園における子どもの学びを体系化したもの。

## 第1章 社会と共有したい幼児教育の基本的な考え方

### 1. 幼児教育の重要性

- ・人の一生において、**幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎が培われる極めて重要な時期。**
- ・近年、乳幼児の頃からの質の高い教育がその時期の発達にとって重要であることや、**その後の人生において長期にわたって学業達成や職業生活、家庭生活など多面的に良い効果をもたらすことなどが明らかにされてきている。**
- ・**全ての幼児に格差なく質の高い幼児教育を保障し、幼児一人一人のよさや可能性を伸ばしながら、生涯にわたる生活や学習の基盤となる生きる力の基礎を育み、それぞれが人生においてウェルビーイングの向上を実現していくことができるようにすることが必要。**

### 2. 幼児期の発達の特徴

- ・幼児期は、**幼児自身が自発的・能動的に環境と関わりながら、生活の中で状況と関連付けて生活に必要な能力や態度などを身に付けていく時期。**幼児期の学びは**身体の諸感覚を通して対象に関わることにより成り立つもの**であり、活動意欲が高まり、成長が著しいこの時期に、豊かで多様な体験を十分に行うことができるようにすることが必要。

### 3. 幼児教育の基本

- ・幼児教育では、**幼稚園教諭・保育士・保育教諭等がその専門性を発揮して、幼児が思わず関わりたくなるような魅力的な環境を意図的・計画的に構成し、幼児が主体性を十分に発揮しながらその環境に関わる遊びや生活を展開することにより幼児の発達を促すという「環境を通して行う教育」が基本。**
- ・幼児は、**教育的な意図をもって計画的に構成された環境の下、好奇心や探究心をもって遊びを展開する中で、様々な能力や態度を身に付けていく。**幼児期においては、**遊びを通しての指導を中心に行うことが重要。**



## 第2章 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく教育活動の成果と課題等

### 1. 幼児教育の基本に関する事項

#### (1) 身体の諸感覚を通じた豊かな体験

- ・近年、子供の外遊びの機会の減少、ゲーム時間・動画の視聴時間の増加、同年齢・異年齢の子供同士の交流機会の減少など、**家庭や地域において幼児の発達に必要な直接的・具体的な体験を十分に確保することが困難になってきている中、幼児教育施設において、安全・安心な場所で、幼児が自由に伸び伸びと遊びながら、様々な人やもの、自然や文化等と直接的・具体的に触れて関わり、豊かな体験をする機会を積極的に設けていくことが一層必要。**

#### (2) 自発的な活動としての遊び

- ・幼児の遊びには、幼児の成長や発達にとって重要な体験が多く含まれており、**自発的な活動としての遊びは、幼児期特有の学習。**
- ・**幼児期は、知識・技能を教え込むことではなく、幼児が幼稚園教諭・保育士・保育教諭等との信頼関係に支えられ、遊びを通して楽しいと感じる多様な体験をしながら、小学校以降の生活や学習の基盤となる資質・能力を育てていくようにすることが重要。**(参照:「幼児教育と小学校教育がつながるってどうのこと?」[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/youchien/mext\\_02697.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/mext_02697.html))
- ・一方、**一部の幼児教育施設においては、SNS等からの偏った情報やそれらに影響を受けた一部の保護者のニーズ等を優先し、ややもすると、文字や数量の機械的暗記や一方的指導など幼児の発達にふさわしくない教育活動が行われているとの指摘。**また、**保護者をはじめ社会においては、幼児教育施設はただ遊ばせているだけとの誤解もある。**
- ・国・地方自治体においては、**幼児期の発達の特徴や幼児期にふさわしい教育の在り方について、妊娠期や子供が乳幼児の頃から保護者等に対して、一層の普及・啓発に取り組むことが必要。**

#### (3) 幼児教育において育みたい資質・能力

- ・幼児教育施設において、小学校以降の生活や学習につながる資質・能力を育むことへの認識が高まり、小学校教育との接続を意識した実践が行われるようになってきた等の成果が上がる一方、幼児教育関係者の中には、**当該資質・能力と5領域のねらい及び内容、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関係を理解・実践することが難しいという指摘があるため、国・地方自治体においては、より実践的な調査研究を進めることが必要。**

#### (4) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」については、幼保小の合同研修等でも活用され、幼保小接続期の教育に関する相互理解が深まっている等の成果が上がる一方、幼児教育関係者の中には、その文言のみで幼児を捉えようしたり、幼児を当てはめて、できる・できないと安易に評価したりしているなどの課題が指摘されているため、国・地方自治体においては、**「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具体的活用等について、研修等を通じて一層の理解・啓発を図ることが必要。**

#### (5) 幼児理解に基づいた評価

- ・幼児教育施設における評価は、定量的に優劣を決めたり、ランクを付けたり、一定の基準に対する到達度についての評定によって捉えるものではなく、**幼児の姿の変容を捉え、その姿が生み出されてきた様々な状況について適切かどうか検討し、教育を改善するための手掛かりを求めることである。**幼児の発達の状況と評価の考え方を保護者と共有し、**幼児教育施設と家庭が一体となって幼児の成長を支える取組を進めていくことが大切。**

## 第1章 社会と共有したい幼児教育の基本的な考え方

### 1. 幼児教育の重要性

- ・人の一生において、**幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎が培われる極めて重要な時期。**
- ・近年、**乳幼児の頃からの質の高い教育がその時期の発達にとって重要であることや、その後の人生において長期にわたって学業達成や職業生活、家庭生活など多面的に良い効果をもたらす**

### 3. 幼児教育の基本

- ・幼児教育では、**幼稚園教諭・保育士・保育教諭等がその専門性を発揮して、幼児が思わず関わりたくなるような魅力的な環境を意図的・計画的に構成し、幼児が主体性を十分に発揮しながらその環境に関わる遊びや生活を展開することにより幼児の発達を促**

## 1. 幼児教育の重要性

- ・人の一生において、**幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎が培われる極めて重要な時期。**
- ・近年、**乳幼児の頃からの質の高い教育がその時期の発達にとって重要であることや、その後の人生において長期にわたって学業達成や職業生活、家庭生活など多面的に良い効果をもたらす**ことなどが明らかにされてきている。
- ・**全ての幼児に格差なく質の高い幼児教育を保障し、幼児一人一人のよさや可能性を伸ばしながら、生涯にわたる生活や学習の基盤となる生きる力の基礎を育み、それぞれが人生においてウェルビーイングの向上を実現していくことができるようにすることが必要。**

で、幼児が自由に伸び伸びと遊びながら、様々な人やもの、自然や文化等と直接的・具体的に触れて関わり、豊かな体験をする機会を積極的に設けていくことが一層必要。

### (2) 自発的な活動としての遊び

- ・幼児の遊びには、幼児の成長や発達にとって重要な体験が多く含まれており、**自発的な活動としての遊びは、幼児期特有の学習。**
- ・**幼児期は、知識・技能を教え込むことではなく、幼児が幼稚園教諭・保育士・保育教諭等との信頼関係に支えられ、遊びを通して楽しいと感じる多様な体験をしながら、小学校以降の生活や学習の基盤となる資質・能力を育んでいくようにすることが重要。**（参照：「幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと？」[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/youchien/mext\\_02697.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/mext_02697.html)）
- ・一方、**一部の幼児教育施設においては、SNS等からの偏った情報やそれらに影響を受けた一部の保護者のニーズ等を優先し、ややもすると、文字や数量の機械的暗記や一方的指導など幼児の発達にふさわしくない教育活動が行われているとの指摘。**また、**保護者をはじめ社会においては、幼児教育施設はただ遊ばせているだけの誤解もある。**
- ・国・地方自治体においては、**幼児期の発達の特長や幼児期にふさわしい教育の在り方について、妊娠期や子供が乳幼児の頃から保護者等に対して、一層の普及・啓発に取り組むことが必要。**

摘があるため、国・地方自治体においては、より実証的な調査研究を進めることが必要。

### (4) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」については、幼保小の合同研修等でも活用され、幼保小接続期の教育に関する相互理解が深まっている等の成果が上がる一方、幼児教育関係者の中には、その文言のみで幼児を捉えようしたり、幼児を当てはめて、できる・できないと安易に評価したりしているなどの課題が指摘されているため、国・地方自治体においては、「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」の具体的活用等について、研修等を通じて一層の理解・啓発を図ることが必要。

### (5) 幼児理解に基づいた評価

- ・幼児教育施設における評価は、定量的に優劣を決めたり、ランクを付けたり、一定の基準に対する到達度についての評定によって捉えるものではなく、幼児の姿の変容を捉え、その姿が生み出されてきた様々な状況について適切かどうか検討し、教育を改善するための手掛かりを求めることである。**幼児の発達の状況と評価の考え方を保護者と共有し、幼児教育施設と家庭が一体となって幼児の成長を支える取組を進めていくことが大切。**

## 第1章 社会と共有したい幼児教育の基本的な考え方

### 1. 幼児教育の重要性

### 3. 幼児教育の基本

#### (2) 自発的な活動としての遊び

・幼児の遊びには、幼児の成長や発達にとって重要な体験が多く含まれており、**自発的な活動としての遊びは、幼児期特有の学習。**

・**幼児期は、知識・技能を教え込むことではなく、幼児が幼稚園教諭・保育士・保育教諭等との信頼関係に支えられ、遊びを通して楽しいと感じる多様な体験をしながら、小学校以降の生活や学習の基盤となる資質・能力を育んでいくようにすることが重要。**（参照：「幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと？」[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/youchien/mext\\_02697.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/mext_02697.html)）

・一方、**一部の幼児教育施設においては、SNS等からの偏った情報やそれらに影響を受けた一部の保護者のニーズ等を優先し、ややもすると、文字や数量の機械的暗記や一方的指導など幼児の発達にふさわしくない教育活動が行われているとの指摘。**また、**保護者をはじめ社会においては、幼児教育施設はただ遊ばせているだけとの誤解もある。**

・国・地方自治体においては、**幼児期の発達の特長や幼児期にふさわしい教育の在り方について、妊娠期や子供が乳幼児の頃から保護者等に対して、一層の普及・啓発に取り組むことが必要。**

・幼児期の遊びは、**幼児期特有の学習。**

・**幼児期は、知識・技能を教え込むことではなく、幼児が幼稚園教諭・保育士・保育教諭等との信頼関係に支えられ、遊びを通して楽しいと感じる多様な体験をしながら、小学校以降の生活や学習の基盤となる資質・能力を育んでいくようにすることが重要。**（参照：「幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと？」[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/youchien/mext\\_02697.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/mext_02697.html)）

・一方、**一部の幼児教育施設においては、SNS等からの偏った情報やそれらに影響を受けた一部の保護者のニーズ等を優先し、ややもすると、文字や数量の機械的暗記や一方的指導など幼児の発達にふさわしくない教育活動が行われているとの指摘。**また、**保護者をはじめ社会においては、幼児教育施設はただ遊ばせているだけとの誤解もある。**

・国・地方自治体においては、**幼児期の発達の特長や幼児期にふさわしい教育の在り方について、妊娠期や子供が乳幼児の頃から保護者等に対して、一層の普及・啓発に取り組むことが必要。**

育関係者の中には、その文言のみで幼児を捉えようとしたり、幼児を当てはめて、できる・できないと安易に評価したりしているなどの課題が指摘されているため、国・地方自治体においては、「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」の具体的活用等について、研修等を通じて一層の理解・啓発を図ることが必要。

#### (5) 幼児理解に基づいた評価

・幼児教育施設における評価は、定量的に優劣を決めたり、ランクを付けたり、一定の基準に対する到達度についての評定によって捉えるものではなく、幼児の姿の変容を捉え、その姿が生み出されてきた様々な状況について適切かどうか検討し、教育を改善するための手掛かりを求めることである。**幼児の発達状況と評価の考え方を保護者と共有し、幼児教育施設と家庭が一体となって幼児の成長を支える取組を進めていくことが大切。**

# 幼児期及び幼保小接続期の教育に関する参考資料

## ◆ 幼児期の大切な学びが分かる動画シリーズ

幼児教育は何のためであるのか、幼稚園等においては、子供たちに遊びを通してどのように資質・能力を育てているのかについて各動画で解説しています。

幼児教育の  
重要性  
お知らせポスター

### 幼児期に 本当に大切な学びって 何ですか？

幼児期は、「遊び」の中で周囲のヒト・モノ・コトに自ら遊んで関わりながら、豊かで多様な体験を通して、様々な「学びの芽」を育てていく時期です。小学校以降の学びの基礎となる「学びの芽」。

そんな「学びの芽」はどのように育まれているのでしょうか？



見てね！

幼児期の大切な学びが分かる動画シリーズ



幼児教育は何か？  
(約2分)



「遊び」が「学び」って  
どういうこと？  
(約7分)



「学びの芽」を育てる  
多様な遊び  
(約5分)



「学びの芽」を育てる  
先生も学ぶ  
(約7分)



文部科学省

## ◆ 幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと？

幼児教育と小学校教育の接続について、幼児期の遊びを通した学びと小学校の各教科等の学習のつながりを見える化し、幼保小の相互理解を促進するための参考資料です。

第1章「幼児教育と小学校教育」においては、それぞれの教育の特徴等を解説し、第2章「各教科等における学びのつながり」においては、幼児期の遊びを通した学びと各教科等の学習（小学校一年生で学習する全ての各教科等）とのつながり等を解説しています。

幼稚園等  
幼児期の遊びを通した学び

小学校

幼児期の遊びを通した学びを生かした授業展開例



(文部科学省HP)

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/youchien/mext\\_02697.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/mext_02697.html)

(書籍情報)

[https://www.toyokan.co.jp/products/5659?\\_pos=1&\\_sid=6530f6695&\\_ss=r](https://www.toyokan.co.jp/products/5659?_pos=1&_sid=6530f6695&_ss=r) (東洋館HP)



## 第1章 社会と共有したい幼児教育の基本的な考え方

### 1. 幼児教育の重要性

- ・人の一生において、**幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎が培われる極めて重要な時期。**
- ・近年、乳幼児の頃からの質の高い教育がその時期の発達にとって重要であることや、**その後の人生において長期にわたって学業達成や職業生活、家庭生活など多面的に良い効果をもたらすことなどが明らかにされてきている。**
- ・**全ての幼児に格差なく質の高い幼児教育を保障し、幼児一人一人のよさや可能性を伸ばしながら、生涯にわたる生活や学習の基盤となる生きる力の基礎を育み、それぞれが人生においてウェルビーイングの向上を実現していくことができるようにすることが必要。**

### 2. 幼児期の発達の特性

- ・幼児期は、**幼児自身が自発的・能動的に環境と関わりながら、生活の中で状況と関連付けて生活に必要な能力や態度などを身に付けていく時期。幼児期の学びは身体の諸感覚を通して対象に関わることにより成り立つもの**であり、活動意欲が高まり、成長が著しいこの時期に、豊かで多様な体験を十分に行うことができるようにすることが必要。

## 2. 幼児期の発達の特性

- ・**幼児期は、幼児自身が自発的・能動的に環境と関わりながら、生活の中で状況と関連付けて生活に必要な能力や態度などを身に付けていく時期。幼児期の学びは身体の諸感覚を通して対象に関わることにより成り立つもの**であり、活動意欲が高まり、成長が著しいこの時期に、豊かで多様な体験を十分に行うことができるようにすることが必要。

### (2) 自発的な活動としての遊び

- ・幼児の遊びには、幼児の成長や発達にとって重要な体験が多く含まれており、**自発的な活動としての遊びは、幼児期特有の学習。**
- ・**幼児期は、知識・技能を教え込むことではなく、幼児が幼稚園教諭・保育士・保育教諭等との信頼関係に支えられ、遊びを通して楽しいと感じる多様な体験をしながら、小学校以降の生活や学習の基盤となる資質・能力を育てていくようにすることが重要。**（参照：「幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと？」[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/youchien/mext\\_02697.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/mext_02697.html)）
- ・一方、**一部の幼児教育施設においては、SNS等からの偏った情報やそれらに影響を受けた一部の保護者のニーズ等を優先し、ややもすると、文字や数量の機械的暗記や一方的指導など幼児の発達にふさわしくない教育活動が行われているとの指摘。**また、**保護者をはじめ社会においては、幼児教育施設はただ遊ばせているだけの誤解もある。**
- ・国・地方自治体においては、**幼児期の発達の特性や幼児期にふさわしい教育の在り方について、妊娠期や子供が乳幼児の頃から保護者等に対して、一層の普及・啓発に取り組むことが必要。**

### 3. 幼児教育の基本

- ・幼児教育では、**幼稚園教諭・保育士・保育教諭等がその専門性を発揮して、幼児が思わず関わりたくなるような魅力的な環境を意図的・計画的に構成し、幼児が主体性を十分に発揮しながらその環境に関わる遊びや生活を展開することにより幼児の発達を促すという「環境を通して行う教育」が基本。**
- ・幼児は、**教育的な意図をもって計画的に構成された環境の下、好奇心や探究心をもって遊びを展開する中で、様々な能力や態度を身に付けていく。**幼児期においては、**遊びを通しての指導を中心に行うことが重要。**

遊びは学び 学びは遊び  
“やってみないと学びの基”



### (4) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」については、幼保小の合同研修等でも活用され、幼保小接続期の教育に関する相互理解が深まっている等の成果が上がる一方、幼児教育関係者の中には、その文言のみで幼児を捉えようしたり、幼児を当てはめて、できないと安易に評価したりしているなどの課題が指摘されているため、国・地方自治体においては、「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」の具体的活用等について、**研修等を通じて一層の理解・啓発を図ることが必要。**

### (5) 幼児理解に基づいた評価

- ・幼児教育施設における評価は、定量的に優劣を決めたり、ランクを付けたり、一定の基準に対する到達度についての評定によって捉えるものではなく、**幼児の姿の変容を捉え、その姿が生み出されてきた様々な状況について適切かどうか検討し、教育を改善するための手掛かりを求めることである。**幼児の発達の状況と評価の考え方を保護者と共有し、**幼児教育施設と家庭が一体となって幼児の成長を支える取組を進めていくことが大切。**

## 第1章 社会と共有したい幼児教育の基本的な考え方

### 1. 幼児教育の重要性

- ・人の一生において、幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎が培われる極めて重要な時期。
- ・近年、乳幼児の頃からの質の高い教育がその時期の発達にとって重要であることや、その後の人生において長期にわたって学業達成や職業生活、家庭生活など多面的に良い効果をもたらす

こと  
・全  
がら  
ルビ  
2  
・幼  
生活  
象に  
様な

第  
1.  
(1)  
・近  
供同  
験を

で、幼児が自由に伸び伸びと遊びながら、様々な人やもの、自然や文化等と直接的・具体的に  
触れて関わり、豊かな体験をする機会を積極的に設けていくことが一層必要。

### (2) 自発的な活動としての遊び

- ・幼児の遊びには、幼児の成長や発達にとって重要な体験が多く含まれており、自発的な活動とし  
ての遊びは、幼児期特有の学習。
- ・幼児期は、知識・技能を教え込むことではなく、幼児が幼稚園教諭・保育士・保育教諭等との信  
頼関係に支えられ、遊びを通して楽しいと感じる多様な体験をしながら、小学校以降の生活や学  
習の基盤となる資質・能力を育てていくようにすることが重要。（参照：「[幼児教育と小学校教育がつな  
がるってどういうこと？](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/mext_02697.html)」[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/youchien/mext\\_02697.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/mext_02697.html)）
- ・一方、一部の幼児教育施設においては、SNS等からの偏った情報やそれらに影響を受けた一部  
の保護者のニーズ等を優先し、ややもすると、文字や数量の機械的暗記や一方的指導など幼児の  
発達にふさわしくない教育活動が行われているとの指摘。また、保護者をはじめ社会においては、  
幼児教育施設はただ遊ばせているだけとの誤解もある。
- ・国・地方自治体においては、幼児期の発達の特長や幼児期にふさわしい教育の在り方について、  
妊娠期や子供が乳幼児の頃から保護者等に対して、一層の普及・啓発に取り組むことが必要。

### 3. 幼児教育の基本

- ・幼児教育では、幼稚園教諭・保育士・保育教諭等がその専門性を発揮して、幼児が  
思わず関わりたくなるような魅力的な環境を意図的・計画的に構成し、幼児が主体性を  
十分に発揮しながらその環境に関わる遊びや生活を展開することにより幼児の発達を促

心をもつ  
遊びを



ンペリンク

ことへの  
の成果  
び内容、  
という指

## 3. 幼児教育の基本

・幼児教育では、幼稚園教諭・保育士・保育教諭等がその専門性を発揮して、幼児が  
思わず関わりたくなるような魅力的な環境を意図的・計画的に構成し、幼児が主体性を  
十分に発揮しながらその環境に関わる遊びや生活を展開することにより幼児の発達を促  
すという「環境を通して行う教育」が基本。

・幼児は、教育的な意図をもって計画的に構成された環境の下、好奇心や探究心をもつ  
て遊びを展開する中で、様々な能力や態度を身に付けていく。幼児期においては、遊びを  
通しての指導を中心に行うことが重要。

摘があるため、国・地方自治体においては、より実践的な調査研究を進めることが必要。

### (4) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」については、幼保小の合同研修等でも活用され、  
幼保小接続期の教育に関する相互理解が深まっている等の成果が上がる一方、幼児教育  
関係者の中には、その文言のみで幼児を捉えようしたり、幼児を当てはめて、できる・で  
きないと安易に評価したりしているなどの課題が指摘されているため、国・地方自治体にお  
いては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具体的活用等について、研修等を通  
じて一層の理解・啓発を図ることが必要。

### (5) 幼児理解に基づいた評価

・幼児教育施設における評価は、定量的に優劣を決めたり、ランクを付けたり、一定の基  
準に対する到達度についての評定によって捉えるものではなく、幼児の姿の変容を捉え、そ  
の姿が生み出されてきた様々な状況について適切かどうか検討し、教育を改善するための  
手掛かりを求めることである。幼児の発達の状況と評価の考え方を保護者と共有し、幼  
児教育施設と家庭が一体となって幼児の成長を支える取組を進めていくことが大切。

## 教師の環境構成・援助等を捉える具体的観点②

### アクティブラーニングの5要素

- ヘックマンの「幼児教育の投資効果」の根拠となる「ペリー就学前計画」で実施された幼児教育プログラム

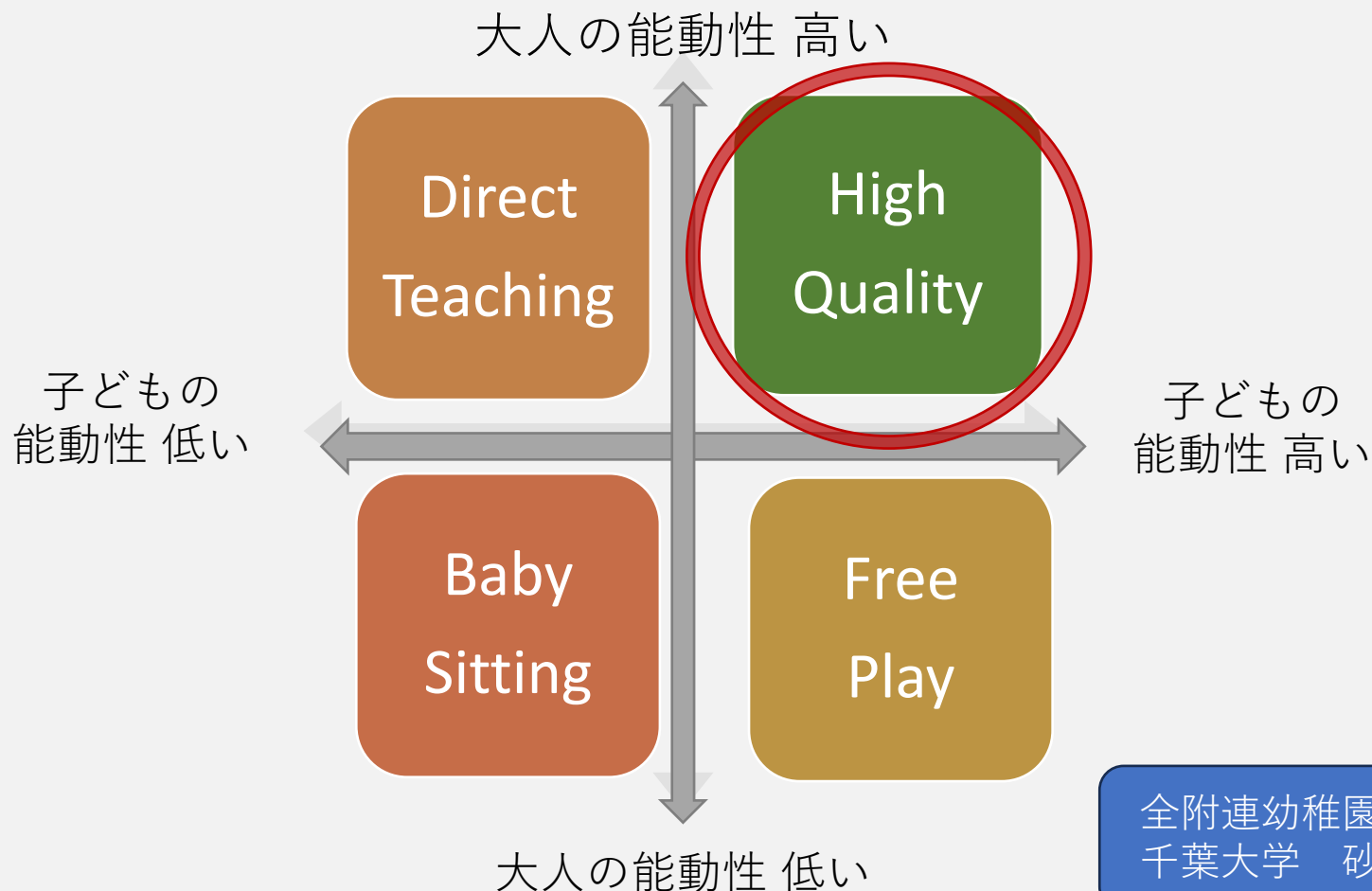
#### ハイスコープ・カリキュラム

- 幼児は、周囲の環境に能動的に関わりながら発達する存在
- 時間と空間の構造化
- Plan-Do-Reviewという一連の過程の重視
- 「アクティブラーニング」の重視

環境を通しての教育／遊びを通しての指導

# ハイ・スコープカリキュラムの特長

質の高い幼児教育とは、大人も子どもも能動的(Active)で、**コントロールを共有(Shared Control)** している。



評価項目・指標で、子どもの能動性（子どもの具体的姿）と大人の能動性（環境構成・援助等）の**両方が把握**できることが重要

# 第1章 総 則

## 第1 幼稚園教育の基本

### 「環境を通して行う教育」

環境の中に教育的価値を含ませながら、  
幼児が自ら興味や関心をもって環境に取り組み、  
試行錯誤を経て、  
環境へのふさわしいかかわり方を身に付けていくこと  
を意図した教育

# 幼児の主体性と教師の意図

環境を通して行う教育は、

幼児の主体性と教師の意図がバランスよく絡み合って成り立つ

幼稚園教育が目指しているものは、

- × 幼児が一つ一つの活動を効率よく進めるようになること
- 幼児が自ら発達に必要なものを獲得しようとするようになること
  
- × いろいろな活動を教師が計画したとおりに、全てを行わせることにより育てられるものではない
- 幼児自ら周囲の環境に働き掛けて様々な活動を生み出し、それが幼児の意識や必要感、あるいは興味などによって連続性を保ちながら展開されることを通して育てられていく
  
- × 教師主導の一方的な保育の展開
- 一人一人の幼児が教師の援助の下で主体性を発揮して活動を展開していくことができるような幼児の立場に立った保育の展開

# 幼児の主体性と教師の意図

日々の生活する姿を捉えることが求められる

- ・ 何に関心を抱いているのか
- ・ 何に意欲的に取り組んでいるのか
- ・ 何に行き詰まっているのか など

捉えた姿から

どんなに幼児の願いを受け止め、工夫して計画しても、その中で幼児が何を体験するかは幼児の活動にゆだねるほかはない場合もある

しかし

幼児の生活や発達を見通して指導の計画を立てる

- ・ 今幼児が取り組んでいることは  
その幼児にとって十分なことなのか
- ・ 新たな活動を生み出すことができることなのか など

× 「幼児をただ遊ばせている」だけでは教育は成り立たない

○ 一人一人の幼児に今どのような体験が必要なのだろうかと考え、そのためにはどうしたらよいかを常に工夫し、日々の保育に取り組んでいく

活動の主体は幼児  
教師は活動が生まれやすく展開しやすい  
ように意図をもって環境を構成



発達に必要な体験

### (3) 幼児教育において育みたい資質・能力

・幼児教育施設において、小学校以降の生活や学習につながる資質・能力を育むことへの認識が高まり、小学校教育との接続を意識した実践が行われるようになってきた等の成果が上がる一方、幼児教育関係者の中には、**当該資質・能力と5領域のねらい及び内容、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関係**を理解・実践することが難しいという指摘があるため、国・地方自治体においては、**より実践的な調査研究を進めることが必要。**

### (4) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」については、幼保小の合同研修等でも活用され、幼保小接続期の教育に関する相互理解が深まっている等の成果が上がる一方、幼児教育関係者の中には、その文言のみで幼児を捉えようとしたり、幼児を当てはめて、できる・できないと安易に評価したりしているなどの課題が指摘されているため、国・地方自治体においては、**「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具体的活用等について、研修等を通じて一層の理解・啓発を図ることが必要。**

で、幼児が自由に伸び伸びと遊びながら、様々な人やもの、自然や文化等と直接的・具体的に触れて関わり、豊かな体験をする機会を積極的に設けていくことが一層必要。

#### (2) 自発的な活動としての遊び

- ・幼児の遊びには、幼児の成長や発達にとって重要な体験が多く含まれており、**自発的な活動としての遊びは、幼児期特有の学習。**
- ・**幼児期**は、知識・技能を教え込むことではなく、幼児が幼稚園教諭・保育士・保育教諭等との信頼関係に支えられ、**遊びを通して楽しいと感じる多様な体験をしながら、小学校以降の生活や学習の基盤となる資質・能力を育んでいくようにすることが重要。**（参照：「幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと？」[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/youchien/mext\\_02697.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/mext_02697.html)）
- ・一方、一部の**幼児教育施設においては**、SNS等からの偏った情報やそれらに影響を受けた一部の保護者のニーズ等を優先し、ややもすると、文字や数量の機械的暗記や一方的指導など**幼児の発達にふさわしくない教育活動が行われているとの指摘**。また、**保護者をはじめ社会においては、幼児教育施設はただ遊ばせているだけとの誤解もある。**
- ・国・地方自治体においては、**幼児期の発達の特長や幼児期にふさわしい教育の在り方について**、妊娠期や子供が乳幼児の頃から保護者等に対して、**一層の普及・啓発に取り組むことが必要。**

摘があるため、国・地方自治体においては、より実践的な調査研究を進めることが必要。

#### (4) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」については、幼保小の合同研修等でも活用され、幼保小接続期の教育に関する相互理解が深まっている等の成果が上がる一方、幼児教育関係者の中には、その文言のみで幼児を捉えようとしたり、幼児を当てはめて、できる・できないと安易に評価したりしているなどの課題が指摘されているため、国・地方自治体においては、**「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具体的活用等について、研修等を通じて一層の理解・啓発を図ることが必要。**

#### (5) 幼児理解に基づいた評価

・幼児教育施設における評価は、定量的に優劣を決めたり、ランクを付けたり、一定の基準に対する到達度についての評定によって捉えるものではなく、**幼児の姿の変容を捉え、その姿が生み出されてきた様々な状況について適切かどうか検討し、教育を改善するための手掛かりを求めることである。**幼児の発達の状況と評価の考え方を保護者と共有し、**幼児教育施設と家庭が一体となって幼児の成長を支える取組を進めていくことが大切。**

# 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

## 第2 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

3つの資質・能力

1 幼稚園においては、生きる力の基礎を育むため、この章の第1に示す幼稚園教育の基本を踏まえ、次に掲げる資質・能力を一体的に育むよう努めるものとする。

- (1) 豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」
- (2) 気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」
- (3) 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」

2 1に示す資質・能力は、第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体によって育むものである。

5つの領域

3 次に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、第2章に示すねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園修了時の具体的な姿であり、教師が指導を行う際に考慮するものである。

10の姿

# 小学校学習指導要領 (平成29年告示)

## 第1章 総則

### 第3 教育課程の役割と編成等

#### 4 学校段階間等の接続

教育課程の編成に当たっては、次の事項に配慮しながら、学校段階間等の接続を図るものとする。

(1) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。

また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の連携を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うよう努めるものとする。

# 小学校学習指導要領 (平成29年告示)

## 第2章 各教科

### 第5節 生活

#### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (4) 他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高め、低学年における教育全体の充実を図り、中学年以降の教育へ円滑に接続できるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期における遊びを通じた総合的な学びから他教科等における学習に円滑に移行し、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるようにすること。その際、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。

※国語、算数、音楽、図画工作、体育、特別活動においても、同様の記載

# 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(1)~(5)

## (1) 健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

## (2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

## (3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

## (4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

## (5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

# 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(6)~(10)

## (6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

## (7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることをもちかえり関わるようになる。

## (8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

## (9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

## (10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

## (4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

# 中教審「幼児教育部会における取りまとめ」より

## 資質・能力の三つの柱に沿った、幼児教育において育みたい 資質・能力の整理イメージ（たたき台）

別添1

小学校  
以上

### 知識・技能

(何を知っているか、  
何ができるか)

### 思考力・判断力・表現力等

(知っていること・できることを  
どう使うか)

### 学びに向かう力、人間性等

情意、態度等に関わるもの  
(どのように社会・世界と関わり  
よりよい人生を送るか)

※下に示す資質・能力は例示であり、遊びを通しての総合的な指導を通じて育成される。

#### 知識・技能の基礎

(遊びや生活の中で、豊かな体験を通じて、何を感じたり、  
何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになるのか)

- ・ 基本的な生活習慣や生活に必要な技能の獲得 ・ 身体感覚の育成
- ・ 規則性、法則性、関連性等の発見
- ・ 様々な気付き、発見の喜び
- ・ 日常生活に必要な言葉の理解
- ・ 多様な動きや芸術表現のための基礎的な技能の獲得

等

#### 思考力・判断力・表現力等の基礎

(遊びや生活の中で、気付いたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか)

- ・ 試行錯誤、工夫
- ・ 予想、予測、比較、分類、確認
- ・ 他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさ
- ・ 言葉による表現、伝え合い

- ・ 振り返り、次への見通し
- ・ 自分なりの表現
- ・ 表現する喜び 等

#### 遊びを通しての 総合的な指導

- ・ 思いやり ・ 安定した情緒 ・ 自信
- ・ 相手の気持ちの受容 ・ 好奇心、探究心
- ・ 葛藤、自分への向き合い、折り合い
- ・ 話し合い、目的の共有、協力
- ・ 色・形・音等の美しさや面白さに対する感覚
- ・ 自然現象や社会現象への関心

等

#### 学びに向かう力、人間性等

(心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか)

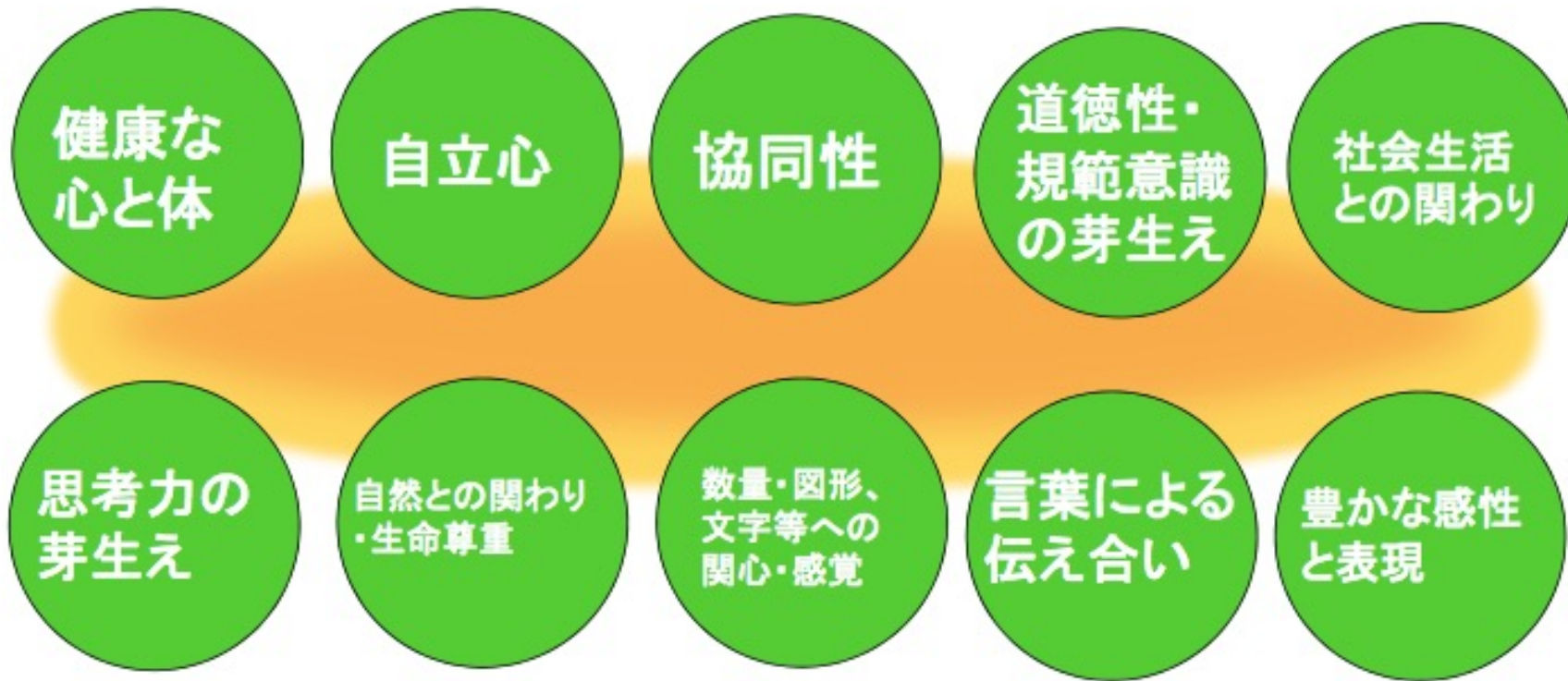
・ 三つの円の中で例示される資質・能力は、五つの領域の「ねらい及び内容」及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から、主なものを取り出し、便宜的に分けたものである。

へ  
環境  
を  
通  
し  
て  
行  
う  
教  
育  
へ

幼  
児  
教  
育

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の整理イメージ

別添2



幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿(※)

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性の芽生え	規範意識の芽生え	いろいろな人とのかかわり
思考力の芽生え	自然とのかかわり	生命尊重・公共心等	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

※「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(報告)」(平成22年11月11日)に基づく整理。

# 1. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の捉え方の例

自らの興味や関心に応じて、思うがままに環境と関わる中で、様々な体験を積み重ねていく。その具体的な姿について「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに捉える。

活動中での具体的な幼児の姿を通して、幼保小の先生方が話し合うことが大切である。ここでは、幼児が自分達で考えたお店屋さんごっこ（クレープ屋さんの場合）を例に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を捉えてみる。

## 健康な心と体

明日、クレープ屋さんをやりたいと思って、お店に必要な小道具を考えて準備する

## 自立心

自分達で考えたお店作りが、自分達の力で実現できた達成感、友達が喜ぶ充実感を味わう

## 協同性

実現したいお店のイメージを友達と共有し、役割分担したり協力したりしながらごっこ遊びを展開する

## 道徳性・規範意識の芽生え

やりたいことが友達と異なる時には、折り合いをつけながらきまりをつくる

## 社会生活との関わり

楽しかった地域のお祭りの経験を友達と共有し、かっこよかったクレープ屋さんを再現してみたいと考える

興味や関心に応じて遊びに没頭する姿が絡み合って現れてくる



楽しい

本物らしくしたい

一緒にやりたい

〔今後体験してほしい〕  
共通の目的の実現に向けて協力したり、時には互いの思いがぶつかりあう中で、相手の立場になって考えたり、互いが納得できる代案を考えたりしてほしい。

〔過去の体験〕  
絵をかいた時に、カラフルに色を塗って楽しんでいたので、また、カラフルにしたいと思ったのかな。

## 思考力の芽生え

ふさわしい材料を考えてクレープに見立て、より本物らしい見え方を試行錯誤する

## 自然への関わり・生命尊重

クレープを持って園庭や公園へピクニックに出かけ、花を愛でたり風の気持ちよさを感じたりする

## 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

生活の中にある文字や数字を使ってみると、お店が本物らしくなり楽しくなることを知る

## 言葉による伝え合い

興味を持った出店について友達と意見交換し、自分の思いが伝わる表現を工夫したりしながら話し合う

## 豊かな感性と表現

クレープ生地に具材を置くときに、カラフルできれいにみえるようにするなど、自分なりの表現を楽しむ

幼児教育において育みたい資質・能力  
についての理解をさらに深めるために！

今後の幼児教育の教育課程、指導、評価の在り方に関する有識者検討会（第4回）

幼児教育と小学校教育との接続を指向し、  
幼児教育の可視化・言語化を進めた  
カリキュラム研究の取組から見えてきたこと

令和6年3月11日（月）

神戸大学附属幼稚園 副園長 田中孝尚

tanaka4@kobe-u.ac.jp

# 文部科学省 研究開発学校としての取組より

平成12年度より、一貫して、事実に基づいた子どもの学びを基にしたカリキュラム開発を継続

現在に至るまで

幼児教育現場において、子どもの学びを見取る観点としても、ねらいの観点としても使いやすく、小学校の教師にとっても理解しやすい詳細な資質・能力の観点を整理すべく、実践記録を集積し、検討を重ねている。

【平成29～31年度】	文部科学省 研究開発学校 幼稚園と小学校の円滑な接続に資する、子どもの学びに着目した、幼児教育と小学校教育9年間を一体としてとらえた教育課程の大綱となる「初等教育要領」の充実
【平成25～28年度】	文部科学省 研究開発学校 幼稚園と小学校の円滑な接続に資する、子どもの学びに着目した、幼児教育と小学校教育9年間を一体としてとらえた教育課程の大綱となる「初等教育要領」の開発
【平成22～24年度】	文部科学省 研究開発学校 幼稚園教育と小学校教育の接続期における円滑な接続のための新分野創設に向けたカリキュラムと指導方法等の研究開発
【平成12～14年度】	文部科学省 研究開発学校 社会を創造する知性・人間性を育むことをめざした新しい教育システムの開発
【平成5～7年度】	文部省 研究開発学校 学習主体としての子どもを支援する12か年の教育課程の開発 ～総合・探求学習を核にした幼稚園・小学校・中学校の連携研究の試み～

**9年間を一体として捉えた教育課程の大綱となる「初等教育要領」の開発と充実を進め、「資質・能力カリキュラム」を提案**（『新神戸大学附属幼稚園プラン』）

※本プランは、資質・能力のフィルターを通して、「10視点カリキュラム」を見直したものであり、詳細な資質・能力の観点を有するカリキュラムである。なお、開発・充実した本園の教育課程及び指導計画は、実践データとしての実践記録及びドキュメンテーション等を根拠としたカリキュラム・マネジメントの過程までも公開。カリキュラム・マネジメントを継続し、保育者の資質向上と保護者の幼児教育への理解促進を同時に実現する仕組みをあわせて提案。

**10の方向と40の道筋で幼児教育を可視化し、幼小をつなぐ幼児期のカリキュラムを提案**（『神戸大学附属幼稚園プラン』）

※10視点により幼児期の教育においてめざす方向を示し、40下位項目という詳細な観点毎に、入園から修了までの3年間の子どもの期待する学びの道筋を、ねらいの道筋として示し、「10視点カリキュラム」の取組を深める。日本の幼児教育現場において実現可能な様々なドキュメンテーションの取組も提案。

**幼稚園入園から中学校卒業までの子どもの学びの過程を整理し「学びの一覧表」を作成**

※「学びの一覧表」とは、本校園の幼小中の全教師が、日々の実践から「子どもの事実」、「解釈」、「学び」を「学びのカード」に書き綴り、3歳（幼稚園年少児）から14歳（中学校3年生）までの総数約6,000に及ぶ「学びのカード」を分類・整理し、ボトムアップで一覧表にまとめていったものであり、本校園における子どもの学びを体系化したもの。



神戸大学附属幼稚園の幼小を接続する資質・能力カリキュラムは、各地の市町単位でも園単位でも、教育研究の充実、教員の資質向上に向けて様々な形で活用されている

- ① 事実を基に捉えた子どもの学びを根拠とする詳細な資質・能力の観点
- ② 保育を構造的に思考し、子どもの資質・能力の発揮、伸長を自覚的に支える保育力を醸成する指導案フォーマット
- ③ 遊びや生活の中の子どもの学びの過程を可視化し、子どもと保育者、保護者間で子どもの学びの過程を共有するドキュメンテーションの様々な試み
- ④ 子どもが互いに影響を及ぼし合いながら学びに至る過程を分析的に捉え、保育者の資質向上及びカリキュラム改善に資する実践記録フォーマット
- ⑤ 遊びや生活をまとまりとして捉える長期指導計画
- ⑥ 子どもと共に教師も学び合う幼小合同学習の取組 など

【兵庫県教育委員会 幼小の円滑な接続推進事業（令和2年まで）、幼児期と児童期の円滑な接続推進事業（令和3年度から）】 平成30年度 三木市立三樹幼稚園、令和3・4年度 播磨町立播磨西幼稚園、令和3・4年度 赤穂市立尾崎幼稚園

【高砂市教育委員会、高砂市幼児保育課研修会】 平成30年度から現在に至る

【神戸市子ども家庭局幼保事業課】 平成30年度から現在に至る 公立保育所保育士研修

【新温泉町認定こども園職員研修】 平成30年度から現在に至る

【川西市教育委員会】 令和元～3年度 川西市幼児保育研究部会、令和元年度から幼小接続研修など

【尼崎市幼稚園教育研究会】 令和2～5年度 尼崎市立幼稚園全9園（尼崎市立塚口幼稚園、尼崎市立園和北幼稚園、尼崎市立園田幼稚園、尼崎市立武庫幼稚園、尼崎市立竹谷幼稚園、尼崎市立大島幼稚園、尼崎市立小園幼稚園、尼崎市立長洲幼稚園、尼崎市立立花幼稚園）

【朝来市教育委員会事務局こども育成課幼児教育研修会（朝来市教育研修所指定研究）】 令和3・4年度 朝来市立生野こども園、令和4・5年度 朝来市立大蔵こども園、令和5・6年度 朝来市立糸井こども園

【その他】 赤穂市、相生市、たつの市、宍粟市、姫路市、加西市、加古川市、播磨町、明石市、神戸市、三木市、川西市、各地の民間園など

平成14年度から実施している「参加型研修会」

# 幼児教育を考える研究会（神戸大学附属幼稚園）

- 9:10～9:30 研究会の趣旨説明
- 9:30～11:30 保育参観及び記録
- 11:30～12:10 「学びのカード」記入
- 13:10～14:45 グループ協議
- 15:00～15:30 全大会
- 15:30～16:30 講話

令和5年度 幼児教育を考える研究会  
令和5年度 全国幼児教育研究協会 兵庫支部研修会

## 保育指導案

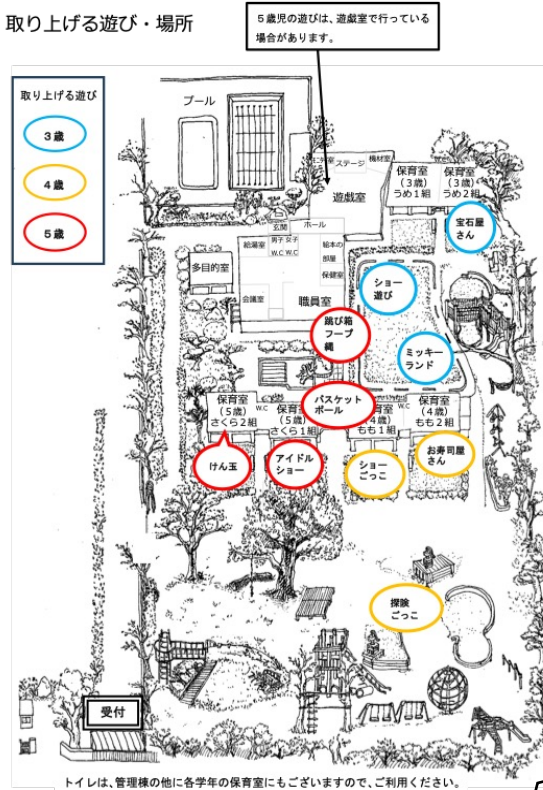
下と右図に示している『取り上げる遊び』の中から、  
1つの遊びを選んで『学びのカード』をお書きください。

クラス（背番号色）・掲載ページ	取り上げる遊び
3歳児うめ1組（背番号 青1～20） …1～3ページ	○ショーあそび ○宝石屋さん ○ミッキランド
うめ2組（背番号 青21～39） …4～6ページ	
4歳児もも1組（背番号 黄1～20） …7～9ページ	○ショーごっこ ○探検ごっこ ○お寿司屋さん
もも2組（背番号 黄21～39） …10～12ページ	
5歳児さくら1組（背番号 赤1～19） さくら2組（背番号 赤21～39） …13～16ページ	○バスケットボール ○アイドルショー ○けん玉 ○遊び箱・フープ・縄
*遊びや生活のままとりとしての計画「令和5年度5歳児発表会」もご参照ください。	

### 参観にあたって

- ☆ 園内では、参加証を必ず身に付けてください。
- ☆ 個人情報保護の観点から、保育中の撮影、子どもの名前や顔など個人を特定できる情報の撮影はご遠慮ください。また、学びのカードの取り扱いにはくれぐれもご注意ください。
- ☆ 子ども達の遊びの動線にご配慮いただき、保育室の出入り口やテラス、水道前などに立ちふさがらないようにしてください。
- ☆ 意図をもって保育をしていますので、子ども達や教師に話しかけないでください。

### 取り上げる遊び・場所



トイレは、管理棟の他に各学年の保育室にもございますので、ご利用ください。

令和5年度 幼児教育を考える研究会  
令和5年度 全国幼児教育研究協会 兵庫支部研修会  
今年度テーマ>  
「遊びの中の学びを見る ～資質・能力の発揮、伸びを支えるために～」  
本研究会は、子どもの成長と進歩の態度に基づいて語り合う参加型研究会です。参観者がとらえた印象ではなく、子どもの進歩と進歩の態度に基づいて、語り合います。参観者がとらえた印象ではなく、子どもの進歩と進歩の態度に基づいて、語り合います。参観者がとらえた印象ではなく、子どもの進歩と進歩の態度に基づいて、語り合います。

子どもは遊びや生活を通して、様々なことを学んでいます。保育参観を通して、子どもがどんな資質・能力を発揮、伸ばしているのかを、本校園で見出している資質・能力を観点に書いてください。その際、思い込みにとらわれないように、子どもの進歩と進歩の態度に基づいて語り合います。この『学びのカード』を基に、グループ協議で、遊びの中の学びについて語り合います。この『学びのカード』を基に、グループ協議で、遊びの中の学びについて語り合います。この『学びのカード』を基に、グループ協議で、遊びの中の学びについて語り合います。

平成28年度まで：10視点カリキュラム  
平成29年度：幼児期の終わりまでに育てほしい姿（10の姿）  
平成30年度から：資質・能力カリキュラム  
詳細な観点を活用し、事実を基に遊びや生活の中の豊かな子どもの学びを捉える。

総合的に指導しようとするれば、様々な観点から学びを捉えられることが不可欠であり、様々な観点から学びを捉えるためには、詳細な観点があることが有効



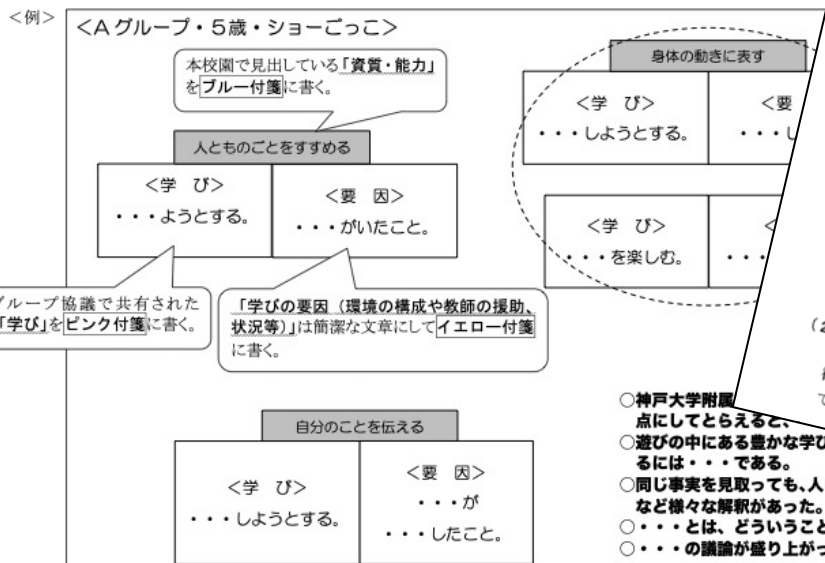
# 幼児教育を考える研究会（神戸大学附属幼稚園）

- 9:10～ 9:30 研究会の趣旨説明
- 9:30～11:30 保育参観及び記録
- 11:30～12:10 「学びのカード」記入
- 13:10～14:45 **グループ協議**
- 15:00～15:30 全大会
- 15:30～16:30 講話

グループ協議の方法も提示し、思い込みや先入観で保育を語らず、事実に基づいた子どもの学びをもとにカリキュラムを改善する知見を見出し、カリキュラムを改善する神戸大学附属幼稚園のカリキュラム・マネジメントの一連の仕組みを体験する機会を通じて、参加者が共に学び合うことを大事に実施している。

## グループ協議用紙について

各グループで協議された遊びの中の「学び」や「学びの要因」について、また、協議の話題を、皆さんで共有模造紙や付箋を例のようにお使いください。



令和5年度 1月 神

### グループ協議の進め方

令和5年度 1月 神戸大学附属幼稚園 研究部

- \*子どもの事実に基づいて、遊びの中の学びをとらえましょう。
- \*常に事実に基づいて、話ができるか、確かめ合いながら協議しましょう。

(1) 各々の「学びのカード」について、遊びの中の学びをとらえましょう。について協議を深める。

① ご自身の「学びのカード」について、下の①②③④を繰り返し、グループ全員の「学びのカード」について話す。（1枚目）

「学びのカード」	
事実 ①	解釈 ② ◎教師の意図
学び ③ 学びの要因	④

◎自分自身が今日の遊びの中でとらえた、子どもにとっての「学び」は何か。  
 ◎それは具体的に、どんな「事実」が基になっているか。  
 ◎「事実」をどのように「解釈」したか。  
 ◎「学び」に至る要因（環境の構成や教師の援助、状況等）は何か。

\*グループに同じ場面の「学びのカード」がないか確かめる。あれば、続けてその「学びのカード」について話す。

② 1枚目の「学びのカード」を基に、子どもの「学び」について話し合う。

- \*他の方がとらえた事実がさらにあれば挙げたり、解釈が異なるところや疑問があれば、子どもの事実に基づき、何が「学び」を付箋に書く。

③ 共通理解した「学び」が、どの資質・能力の方向に向かっている姿かとらえる。

- \*共通理解した「学び」が、どういう方向に向かっている姿なのかを、別紙資料「神戸大学附属幼稚園・小学校 資質・能力の定義」に照らして考える。とらえた資質・能力名を付箋に書き、模造紙に資質・能力毎に「学び」を貼っていく。（次ページ参照）

④ 「学び」に至った要因（環境の構成や教師の援助、状況等）は何か検討する。

- \*共通理解した「学び」につながったと思われる学びの要因を協議し、簡潔な文章にして、付箋に書く。

※協議の中で、新たにとらえられた「学び」（資質・能力を伸長している姿）が出てきたら、ピンク付箋に書く。

※グループ協議の中で、気付いたことや考えたこと、話題に上がったことを赤マジックで随時模造紙に書き込む。

(2) 協議を振り返る。

遊びの中の学びを事実と解釈に分けて丁寧に見取ることや、本校園で見出している資質・能力を観点にして学びを見取ったことについて、また、グループの話題の中心になったことなどについて、簡潔にまとめ、赤マジックで書く。（提示し、他のグループと交流します。）

令和5年度

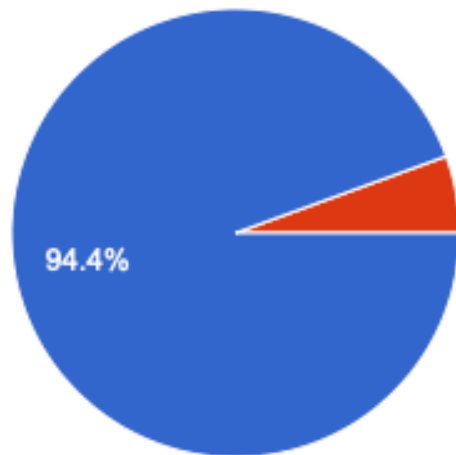
## 幼児教育を 考える研究会

神戸大学附属幼稚園

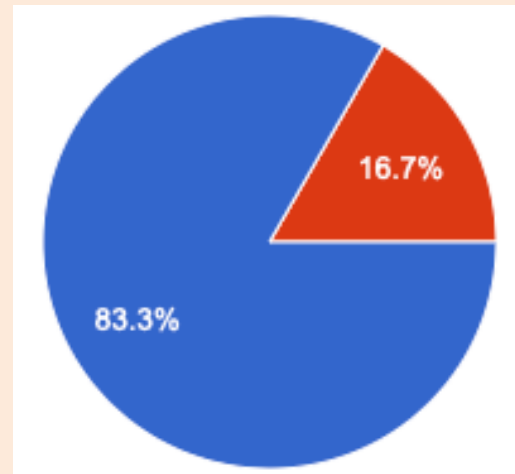
## アンケート結果 一部項目を抜粋

- あてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- あてはまらない

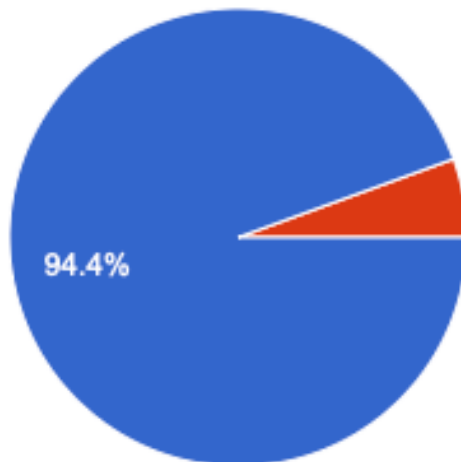
本日の研究会を通して、**事実と解釈を分けて子どもの学びをとらえること**は、意味があると感じた。



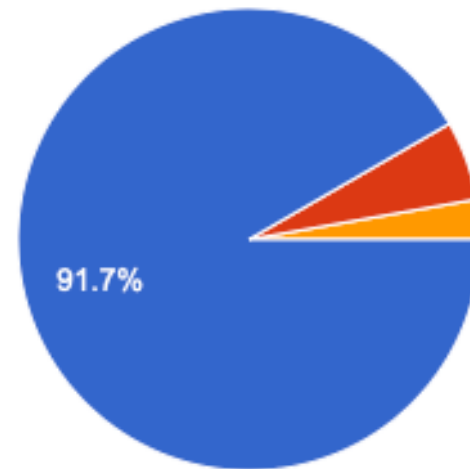
本日の研究会を通して、**資質・能力が詳細で明確になっていることは、保育の充実につながると感じた。**



本日の研究会を通して、**一つの遊びの中に、様々な資質・能力を発揮、伸長する姿を見取ることができる**と感じた。



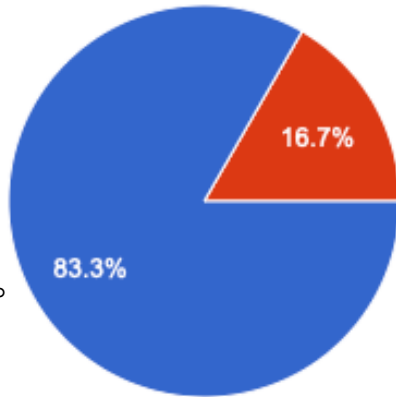
グループ協議を通して、**様々な考えに触れることで自分自身の学びにつながった。**



# 本日の研究会を通して、資質・能力が詳細で明確になっていることは、保育の充実につながると感じた。 「あてはまる」、「ややあてはまる」を選ばれた理由(※一部抜粋)

- 子供の姿から学びをとらえ、それがどんな資質能力につながるかがわかりやすいと思いました。
- 詳細になることで、今の幼児の育ちに合った必要な援助や環境の構成をより具体的に考える手立てとなる
- 幼児の何を支えたくて援助しているのかが分かり、そのための環境や援助がより明確になる。また、教師の意識できていなかった資質・能力があることに気づき、教師の資質向上につながり、保育の充実につながる
- あの表に合わせて子どもを見取る力がまだ弱いので、確信は持てていませんが、子どもがどのような方向に向かって育っているのかがより明確になるとともに、明確になることで、教師の援助や環境の構成などもしやすくなると思います。
- 今、幼児たちにどのような資質能力が育っているのか考えたり、話し合ったりしやすいと感じた。
- 詳細になっていた方がよりこども達の主体性を支えていける保育に見通しがもてると感じたため、
- 10の姿をより具体的に考えたり、小学校や保護者への保育の可視化、連携にも分かりやすく良いと思った。
- 資質・能力が詳細で明確になっていることは、しっかりと学びや解釈、教師の意図が見えてくると思った。
- 資質・能力が詳細、また学年ごとの教育課程と繋がって書かれていることで、より具体的に子供の学びを考えることにつながり、今日だけでも幼児理解が深まったと感じたから
- 今、何が育とうとしているのか、細かく読み取ることができるから。
- 保育記録において、どこをどう記録するかで悩むことがあるが、視点をもっておくことで課題や必要な配慮についても意識して保育することができるため
- 明確な物がないとあやふやになりやすい為。
- 具体的な言葉で示されることで保育をふりかえり、進めていきやすい
- 保育の見方や考え方を整理し、客観的に示す時によりわかりやすいと思うから。
- 資質・能力が詳細で分かりやすいので、保育のねらいをピンポイントに定められる。
- ねらいに対しての環境構成、援助配慮がより深く丁寧に設定することができる。
- その日の遊びの中の学びを、資質・能力にひも付けて考えることができる。また、一人一人が何を学んでいるのか、何を学ばせたいのかが明確になり、次の保育へと繋がっていくと考えた。
- 職員同士で何を育てたいのか、今は何が必要なのかを共通理解するうえで、詳細に分けてあるとわかりやすいと思いました。ただ覚えるのが大変なのかな?とも思いました。

3要領、指針のねらい・内容の数と比べると決して多くはない



- あてはまる
- ややあてはまる
- あまりあてはまらない
- あてはまらない

# 神戸大学附属幼稚園で取り組み、地域の保育者や一般の保護者、小学校の先生方にも共感してもらえたことから主張したいこと

- 資質・能力を育むという考え方になった今、子どもの学びを見取る観点も、ねらいの観点も全て資質・能力の観点に統一することが、全ての人にとって理解しやすくなると思う。
- 3つの資質・能力の大きな枠組みはそのままに、さらに詳細な資質・能力の観点から要領・指針のねらいを整理し、明確に示していくことを提案したい。
- 上記のことにより、次に示す効果があると思う。
  - 幼児教育において、さらに資質・能力の考え方が浸透する。
  - 遊びや生活の中で資質・能力が豊かに発揮・伸長されていることをよりよくわかりやすく発信しやすくなる。
  - 小学校において、資質・能力の3観点で評価しているため、小学校の教師にも、幼児教育が理解しやすくなり、幼小における子どもの学びの見取り方や指導方法等の相互理解の深化が図れる。
- 神戸大学附属幼稚園としても、地域の保育者と共に、本園において見出している資質・能力を精緻に検討し、幼児教育において育みたい資質・能力を明らかにしていく方向で教育研究を継続していきたい。
- 3要領・指針と小学校学習指導要領の用語について、用語が同じであれば同じ意味で使うようにし、幼児教育に独自のものは、別の用語に変えると幼児教育と小学校教育でのカリキュラムづくりにおいても言葉の認識によるズレを防ぎ、相互理解を促進することに資すると思う。（例えば、幼児教育における「内容」と小学校における「内容」の違い）

# 神戸大学附属幼稚園の研究開発学校の取組に研究協力（参画） 資質・能力の具体の観点を活用する

ドキュメンテーション  
（もしくは園だより）で使う

子どもの学びや育ちを発信する際に、観点を使用していなかったり、10の姿や5領域等を活用していたりしたところに、神戸大学附属幼稚園の見出している資質・能力の具体を使ってみる

指導計画（短期）で使う

環境の構成や教師の援助の一つ一つの「意図」にも「行為」にも資質・能力の具体を意識して記述する

（可能であれば、ねらいを立てる際にも資質・能力の具体を意識する）

二つのうちのどちらかもしくは両方

## アンケートへの回答

可能であれば、令和8と9年度の両方、難しければどちらか

# ドキュメンテーション で活用する

～実践例を見ながら～

指導案で活用する

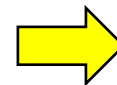
# 幼児の主体性と教師の意図

環境を通して行う教育は、  
幼児の主体性と教師の意図がバランスよく絡み合っ成り立つ

## 幼稚園教育が目指しているもの

- × 幼児が一つ一つの活動を効率よく進めるようになること
- 幼児が自ら発達に必要なものを獲得しようとするようになること
- × いろいろな活動を教師が計画したとおりに、全てを行わせることにより育てられるものではない
- 幼児自ら周囲の環境に働き掛けて様々な活動を生み出し、それが幼児の意識や必要感、あるいは興味などによって連続性を保ちながら展開されることを通して育てていく
- × 教師主導の一方的な保育の展開
- 一人一人の幼児が教師の援助の下で主体性を発揮して活動を展開していくことができるような幼児の立場に立った保育の展開
- × 「幼児をただ遊ばせている」だけでは教育は成り立たない
- 一人一人の幼児に今どのような体験が必要なのだろうかと考え、そのためにはどうしたらよいかを常に工夫し、日々の保育に取り組んでいく

活動の主体は幼児  
教師は活動が生まれやすく展開しやすいように  
意図をもって環境を構成



発達に必要な体験

# 「環境の構成」と「教師の援助」の一つ一つを言語化する際に 資質・能力を育む意識を高める

## 4. 展開

時間	予想される 子どもの活動	*環境の構成及び再構成	◎教師の援助	◇評価の観点
9:00	<b>登園する</b> ・挨拶する ・シールを貼る ・荷物の始末をする  ・ウサギやカメの世話を ・野菜の世話を する  好きな遊びを する  ○リレー ・コースを決めて用意する ・チームや順番を決める ・走って競争する	*1日の生活の見通しをもって過ごせるように、生活の流れや時間、することを絵や文字で記しておく。  ◎先の活動を見通して動けるように、体操に間に合うように早く用意したり、自分で確認しながら丁寧にしたりする  ◎グルーを進め  ◎友達と菜の生や、水を取り組  ◎野菜をな風にやりや  ◎この後、よ て、ど かえ	◎友達と一緒に走る面白さを繰り返し楽しめるように、様々な場所で競争する機会をつくったり、教師も一緒に走って雰囲気盛り上げたりする。  *走りながら、コーナーを回る時の様々な感覚を味わったり、コースに合わせて動き方を様々な調整したりしようとするように、園庭のどこを使うか子どもたちで考えるための園庭図を準備しておく。  ◎思いがぶつかったときに友達の見解を聞いて気持ちを切り替えられるように、順番や走るコースをどんな風に考えているかそれぞれの思いを出す機会をもち、アイデアを整理したり励ましたりする。	◇1日の楽しみなことを話したり、先におこうと話をしたりするか  ◇丁寧にしまったり整えたり、次のことを考
		◎友達と、様 も一緒  *走りな ったりり したち	◎思いがぶつかったときに友達の見解を聞いて気持ちを切り替えられるように、順番や走るコースをどんな風に考えているかそれぞれの思いを出す機会をもち、アイデアを整理したり励ましたりする。	◎⑨ ◇友達の見解を聞いて、そちらの方法でもよいと思っ、やってみようとしているか③  ◇自分たちでしっほ
	○しっほ取り	*勝って嬉しかった、負けて悔しかったという思いか	◎⑨	◇自分たちでしっほ

## 教師の意図と行為をセットで記述

**○リレー**

- ・コースを決めて用意する
- ・チームや順番を決める
- ・走って競争する

**◎友達と一緒に走る面白さを繰り返し楽しめるように、様々な場所で競争する機会をつくったり、教師も一緒に走って雰囲気を盛り上げたりする。**

**\*走りながら、コーナーを回る時の様々な感覚を味わったり、コースに合わせて動き方を様々な調整したりしようとするように、園庭のどこを使うか子どもたちで考えるための園庭図を準備しておく。**

**◎思いがぶつかったときに友達の見解を聞いて気持ちを切り替えられるように、順番や走るコースをどんな風に考えているかそれぞれの思いを出す機会をもち、アイデアを整理したり励ましたりする。**

**◇一度リレーが終わっても「もう一回」と何度も繰り返しているか①**

**◇自分たちで園庭図にコースを書き込んだり、実際のコースを確認したりしているか⑨**

**◇友達の見解を聞いて、そちらの方法でもよいと思っ、やってみようとしているか③**

**意図には、子ども自身がどうなりたいと願っているのか、何を望んでいるのかを踏まえ、どの資質・能力の具体の方向性を意識しているのかを言語化**

**行為には、思考力、判断力、表現力等を働かせることを支える行為を意識して言語化**

## 2. 事例を通して考えてみる ～ 生活科 アサガオ栽培～

「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開(令和3年2月)」3章2. 事例7概要(一部修正)

### 【単元の目標】

アサガオを育てる活動を通して、その変化や成長の様子に関心をもって働き掛けることができ、アサガオが成長していることに気付くとともに、親しみをもち大切にしようとする。

### ①「アサガオの種をまこう」(本時1/18)

◆本時の目標：アサガオについてこれまでの経験や知っていることを伝え合うことを通して、種を観察したり自分がまく種を選んだりして、アサガオを育てることへの意欲や、経験を基にきれいな花を咲かせることへの期待をもつことができるようにする。

主な活動	指導上の留意点
<p>○アサガオの写真を見て、これまでの経験を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「園にたくさん咲いていた」</li><li>・「先生と一緒に水やりしたよ」</li><li>・「色水つくって遊んだよ」</li><li>・「最後にいっぱい種ができた」</li></ul>	<p>○興味や関心には個人差があるので、多くの児童が意欲的に取り組めるよう、これまでの経験を問い掛けるだけでなく、学習環境も工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・アサガオの写真をしっかり見ることができるように、児童を教室の前に集め、目の高さで提示する。</li><li>・つぶやきも拾い、できるだけ多くの意見を取り上げる。</li><li>・個々の経験は違っても、それぞれがアサガオについて想起できている姿を認める。</li></ul>
<p>○アサガオを育てる中で、やってみたいことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「きれいな花をたくさん咲かせたい」</li><li>・「水を毎日やるのが大切だよ」</li><li>・「花が咲いたら、色水遊びをしたいな」</li></ul>	<p>○園などでは、植物を栽培する際にどうしていたか問い掛け、経験を取り上げていくことで「これまでの経験が小学校でも使える」という自信をもてるようにする。(★例1)</p> <p>○児童の意見から、「めあて」や「学習計画」を設定し、見通しをもてるようにすることで、主体的な学びの実現につなげる。(★例5)</p>
<p>○本時を振り返り、気付いたことや楽しみなことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「大きくなるようにたくさん水をやるぞ」</li><li>・「何色の花が咲くのか楽しみ」</li></ul>	<p>○栽培への意欲に結び付けるようにする。</p>

【単元の目標】

- ・アサガオの写真をしっかりと見ることができるよう、児童を教室の前に集め、目の高さで提示する。

主な活動	留意点
<p>○アサガオの写真を見て、これまでの経験を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「園にたくさん咲いていた」</li> <li>・「先生と一緒に水やりしたよ」</li> <li>・「色水つくって遊んだよ」</li> <li>・「最後にいっぱい種ができた」</li> </ul>	<p>○興味や関心があるため、多くの児童が意欲的に取り組める。これまでの経験を問い掛けるだけでなく、学習環境を整える。</p> <p>・アサガオの写真をしっかりと見ることができるよう、児童を教室の前に集め、目の高さで提示する。</p> <p>・つづきやそのほか、できるだけの多くの意欲を取り上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の経験は違っても、それぞれがアサガオについて想起できている姿を認める。</li> </ul>
<p>○アサガオを育てる中で、やってみたいことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「きれいな花をたくさん咲かせたい」</li> <li>・「水を毎日やるのが大切だよ」</li> <li>・「花が咲いたら、色水遊びをしたいな」</li> </ul>	<p>○園などでは、植物を栽培する際にどうしていたか問い掛け、経験を取り上げていくことで「これまでの経験が小学校でも使える」という自信をもてるようにする。(★例1)</p> <p>○児童の意見から、「めあて」や「学習計画」を設定し、見通しをもてるようにすることで、主体的な学びの実現につなげる。(★例5)</p>
<p>○本時を振り返り、気付いたことや楽しみなことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「大きくなるようにたくさん水をやるぞ」</li> <li>・「何色の花が咲くのか楽しみ」</li> </ul>	<p>○栽培への意欲に結び付けるようにする。</p>

【単元の目標】

- 興味や関心には個人差があるので、多くの児童が意欲的に取り組めるよう、これまでの経験を問いかけるだけでなく、学習環境も工夫する。

主な活動	指導上の留意点
<p>○アサガオの写真を見て、これまでの経験を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「園にたくさん咲いていた」</li> <li>・「先生と一緒に水やりしたよ」</li> <li>・「色水つくって遊んだよ」</li> <li>・「最後にいっぱい種ができた」</li> </ul>	<p>○興味や関心には個人差があるので、多くの児童が意欲的に取り組めるよう、これまでの経験を問いかけるだけでなく、学習環境も工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アサガオの写真をしつかりと見ることができるよう、写真を教室の前に集め、目の高さで提示する。</li> <li>・つぶやきも拾い、できるだけ多くの意見を取り上げる。</li> <li>・個々の経験は違っても、それぞれがアサガオについて想起できている姿を認める。</li> </ul>
<p>○アサガオを育てる中で、やってみたいことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「きれいな花をたくさん咲かせたい」</li> <li>・「水を毎日やるのが大切だよ」</li> <li>・「花が咲いたら、色水遊びをしたいな」</li> </ul>	<p>○園などでは、植物を栽培する際にどうしていたか問い掛け、経験を取り上げていくことで「これまでの経験が小学校でも使える」という自信をもてるようにする。(★例1)</p> <p>○児童の意見から、「めあて」や「学習計画」を設定し、見通しをもてるようにすることで、主体的な学びの実現につなげる。(★例5)</p>
<p>○本時を振り返り、気付いたことや楽しみなことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「大きくなるようにたくさん水をやるぞ」</li> <li>・「何色の花が咲くのか楽しみ」</li> </ul>	<p>○栽培への意欲に結び付けるようにする。</p>



## 2. 事例を通して考えてみる ～ 生活科 アサガオ栽培～

「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開(令和3年2月)」3章2. 事例7概要(一部修正)

### 【単元の目標】

- 児童の意見から、「めあて」や「学習計画」を設定し、見通しをもてるようにすることで、主体的な学びの実現につなげる。**

主な活動	
<p>○アサガオの写真を見て、これまでの経験を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「園にたくさん咲いていた」</li> <li>・「先生と一緒に水やりしたよ」</li> <li>・「色水つくって遊んだよ」</li> <li>・「最後にいっぱい種ができた」</li> </ul>	<p>○興味や関心、意欲を高め、学びの意欲を高める。多くの児童が意欲的に取り組み、学びの意欲を高める。問い掛けるだけでなく、学習環境を整える。アサガオの成長を見ることができるよう、児童の目線の高さで提示する。つぶやきなど、興味を高めるだけ多くの意見を取り上げる。個々の意見をも、それぞれがアサガオについて想起できるようにする。</p>
<p>○アサガオを育てる中で、やってみたいことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「きれいな花をたくさん咲かせたい」</li> <li>・「水を毎日やるのが大切だよ」</li> <li>・「花が咲いたら、色水遊びをしたいな」</li> </ul>	<p>○園などでは、植物を栽培する際にどうしていたか問い掛け、経験を振り返り上げていくことで「これまでの経験が小学校でも使える」という自信をもてるようにする。(★例1)</p> <p>○<b>児童の意見から、「めあて」や「学習計画」を設定し、見通しをもてるようにすることで、主体的な学びの実現につなげる。(★例5)</b></p>
<p>○本時を振り返り、気付いたことや楽しみなことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「大きくなるようにたくさん水をやるぞ」</li> <li>・「何色の花が咲くのか楽しみ」</li> </ul>	<p>○栽培への意欲に結び付けるようにする。</p>

【単元の目標】

### ○栽培への意欲に結び付けるようにする。

主な活動	
<p>○アサガオの写真を見て、これまでの経験を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「園にたくさん咲いていた」</li> <li>・「先生と一緒に水やりしたよ」</li> <li>・「色水つくって遊んだよ」</li> <li>・「最後にいっぱい種ができた」</li> </ul>	<p>○興味や関心をもち、多くの児童が意欲的に取り組み、学びの意欲を高め、学びの意欲を高めるだけでなく、学習環境を整えることができるように、児童の思いを大切に提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アサガオの栽培を教室で実践できるように、児童の思いを大切に提示する。</li> <li>・つぶやきなど、興味をもち、多くの意見を取り上げる。</li> <li>・個々の思いを大切に、それぞれがアサガオについて想起できるように提示する。</li> </ul>
<p>○アサガオを育てる中で、やってみたいことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「きれいな花をたくさん咲かせたい」</li> <li>・「水を毎日やるのが大切だよ」</li> <li>・「花が咲いたら、色水遊びをしたいな」</li> </ul>	<p>○園などでのアサガオ栽培の際にどうしていたか問い掛け、経験を振り返ることで「これまでの経験が小学校でも使える」という自信をもてるようにする。(★例1)</p> <p>○児童の思いから、「めあて」や「学習計画」を設定し、見通しをもてるようにすることで、主体的な学びの実現につなげる。(★例5)</p>
<p>○本時を振り返り、気付いたことや楽しみなことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「大きくなるようにたくさん水をやるぞ」</li> <li>・「何色の花が咲くのか楽しみ」</li> </ul>	<p>○栽培への意欲に結び付けるようにする。</p>

# 研究開発学校の取組に参画するメリット！

ドキュメンテーションで活用

○幼児教育における遊びや生活の中に豊かな学び（資質・能力の育ち）があることを語る力がつく

○資質・能力への理解が深まる

○日本の国の幼児教育の発展に関われる

○資質・能力を育むことにつながる手立て（環境の構成・教師の援助）が明確になり、自分自身が何をどのように考えて保育をしているかを語る力がつく

指導計画で活用

## ◆ 幼保小の接続について

OECD

Starting Strong

Reducing Inequalities by Investing  
in Early Childhood Education and Care



○社会的な不平等を軽減し、幼児教育・保育のメリットが長期にわたって持続するようにするには、子どもと親のための他の社会サービスや保健サービスとの連携、賢明な資金調達とガバナンスなど、部門横断的なアプローチが必要。

○その一つとして、幼児教育・保育とその後の学校の様々な段階における接続を改善することが、教育的アプローチの継続性をサポートし、それを子どもの年齢に適応させるためにも、必要である。

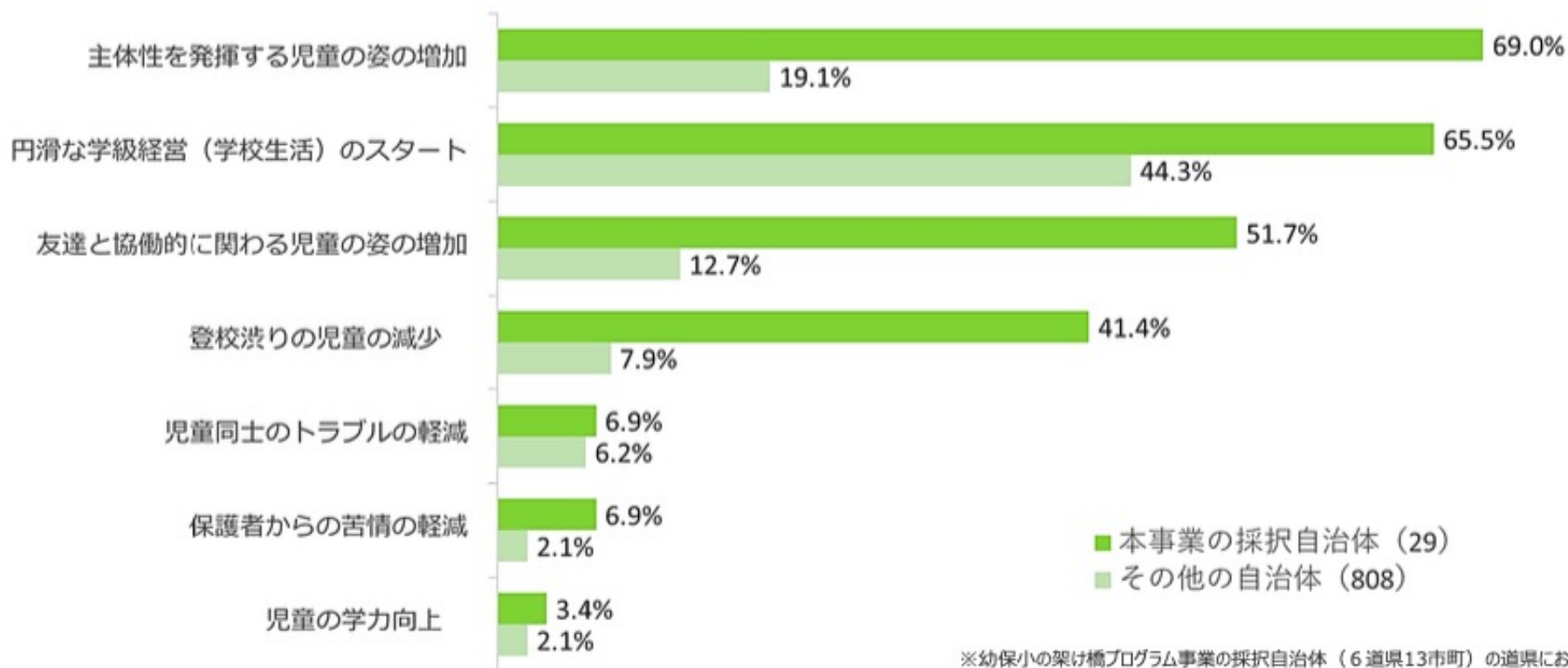
○例えば、日本では幼児教育と小学校教育の円滑な接続の改善を図るための「幼保小の架け橋プログラム」が実施され、このプログラムに参加した地域からは、小学校において、子どもたちの幼児教育での経験を意識し、遊びや生活経験とのつながりを意識した指導をするようになった、と報告されている。また、登校渋りの児童の減少といった報告もされている。

# 幼保小の架け橋プログラムの成果

(幼保小の架け橋プログラム事業におけるアンケート調査結果より)

Q. 幼保小の接続に取り組んでいる中で、改善された小学校（学級）の課題があれば、当てはまるものを選択してください。  
(当てはまるものを全て選択)

## 【改善された小学校の課題（令和5年度）】



※幼保小の架け橋プログラム事業の採択自治体（6道県13市町）の道県においては、道県の回答及び連携市町からの回答を「採択自治体」として集計している。

神戸大学附属幼稚園の  
研究開発学校の取組に  
参画することを通して

各市町の架け橋プログラムの取組に  
役立てていただくとともに  
兵庫県から要領の改訂に向けた発信に

ぜひ参画を！

## 2. 現代的諸課題に応じて検討すべき事項

### (1) 幼児教育施設におけるICTの活用

・国において、幼児教育の「環境を通して行う教育」の環境にデジタル環境が含まれることを明確にし、ICTの効果的な活用方法等の調査研究、研修プログラムの開発等、デジタル環境の整備や支援、低年齢児への弊害・リスクや活用上の留意点についての検討が必要。

### (2) 特別な配慮を必要とする幼児への指導

・幼児の障害や文化的・言語的背景などの特性を踏まえた教育を行うことが必要であり、国・地方自治体において、特別な配慮を必要とする幼児への継続的な支援を可能にする体制作り（幼児教育施設と医療、母子保健、福祉等の関係機関との連携促進、幼児教育施設へのアドバイザー等の積極的派遣、研修プログラム・研修資料等の提供等）が必要。

### (3) 幼稚園等が行ういわゆる預かり保育

・国・地方自治体において、教育課程に係る教育時間終了後等においても、幼児の学びや成長につながる教育活動が実施されるよう、幼稚園等におけるいわゆる預かり保育について、より実践的な調査研究を進めることが必要。

### (4) 幼稚園等における満3歳以上児の教育の接続

・満3歳未満児の実態を踏まえながら、0歳から18歳の子供の発達や学びの連続性の観点、満3歳以上児の教育との円滑な接続や幼保小の接続を見通した幼児期における教育の一貫性・連続性の確保という観点から、幼児教育の充実を図ることが必要。

### (5) 地域における幼児教育施設の役割

・幼児教育施設は、地域の幼児教育の中核的存在として、在園児のみならず、地域の子供に幼児教育の機能と施設を積極的に開放し、様々な家庭や年齢層の子供が学びの環境に関わることができるようにすることが重要。

・保護者が幼児教育施設に対し、長時間預かることを求めたり、幼児への教育について過度に期待しすぎたりする傾向も見られる。幼児の健やかな成長のためには、**幼児教育施設と家庭・地域がそれぞれの有する教育機能や役割を発揮し、支え合いながら一体となって子育てに取り組むことが必要**。保護者の家庭での養育等の重要性についても普及・啓発することが重要。

## 3. 幼児教育と小学校教育との円滑な接続

・国においては、「**幼保小の架け橋プログラム**」を推進しており、一部の地域では、幼児教育施設において小学校の各教科等の指導の専門性等を参考に幼児の主体的な遊びを支える働きかけが充実したり、小学校において入学当初の指導方法が変わり、子供の主体的な姿がより見られるようになってきているなどの成果が上がっている。

・一方、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による幼保小の連携・接続の取組の中断等により、**全国的にみると未だ不十分**。

・小学校低学年においていじめの認知件数が多く、また不登校児童の増加率が高いことを踏まえ、**いじめ・不登校対策の観点からも、幼保小の接続期の教育の充実に取り組むことが重要**。

・**幼児教育施設と小学校の両者が連携の意識をもち、教育実践を見合い、相互の共通理解を図ることが重要**。特に小学校入学当初は**幼児教育との指導方法の連続性・一貫性を確保することが重要**。

・**小学校以降で進められている教育の方向性（「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善につなげていくこと）は、子供それぞれの興味・関心や一人一人の個性に応じた多様で質の高い学びを引き出す観点から、幼児教育の「環境を通して行う教育」の考え方とつながっている**。小学校教育において、**新たなICT環境や先端技術も活用しつつ、「環境を通して行う教育」という幼児教育の基本的な考え方を取り入れた教育実践の研究・普及を行っていくことが考えられる**。

## 第3章 必要な条件整備

### 1. 地方自治体における幼児教育担当部局の在り方

・地方自治体においては、幼児期及び幼保小接続期の教育に関しては、**設置者や施設類型を問わず、教育委員会が一元的に所管又は他の関係部局が所管する場合においても一定の責任を果たす体制を構築することなどにより、教育委員会が有する学校教育の専門的知見を生かしながら、幼児教育段階から高等学校教育段階までの教育の一貫性・連続性を確保した施策を展開することが重要**。

### 2. 今後の幼児教育施設の在り方

・今後、人口減少が急速に進み、運営の継続が困難となる幼児教育施設が増える地域も出てくるが見込まれる中、国においては、**地域において幼児教育施設の規模や期待する役割など今後の在り方について検討を進めることができるよう、調査研究等により支援を行うことなどが必要**。

・とりわけ著しく減少を続けている**公立幼稚園**については、これまで果たしてきた役割を今後も果たせるよう、地方自治体において、**地域の実情や保護者のニーズ等を踏まえつつ、3年保育や預かり保育の実施、認定こども園への移行等を検討することが必要**。

### 3. 幼児教育施設への支援体制

- ・地方自治体において、
- **地域の幼児教育ビジョンを明確にし、幼児教育センターの設置・活用、幼児教育施設との合同研修、幼児教育アドバイザー・架け橋コーディネーター等の育成・配置等を推進**
  - **教育委員会を中心となり、「幼保小の架け橋プログラム」促進のための体制を構築**
  - **国公私立の幼児教育施設のネットワークやプラットフォームの構築、公開保育等を推進**
- ・国において、
- **幼児教育センターや幼児教育アドバイザー等を法令等に位置付け、広域連携を促進**
  - **地方自治体における「幼保小の架け橋プログラム」の体制構築等の取組を支援**
  - **NIERセンターによる日本独自の質評価指標の開発や園内研修等における活用を推進**
  - **幼児教育施設間のピア評価や第三者評価を通じた教育の質の見える化等を推進**

※NIERセンター：国立教育政策研究所幼児教育研究センター

### 4. EBPMの推進

・国・地方自治体において幼児教育政策について検討を行うに当たっては、**幼児教育の大規模縦断調査や諸外国の動向等の調査研究から得られたエビデンスを生かしながら検討を進めていくことが必要**。

※EBPM:証拠に基づく政策立案 (Evidence-Based Policy Making)

# カリキュラム資料

神戸大学附属幼稚園ホームページ参照



## What's new 新着情報

2025年5月16日

2025年4月1日

## 文部科学省 研究開発学校

### ◆令和6年度～9年度

研究課題：幼稚園教育要領における5領域の構成と要領上の用語の不一致が、小学校教師の幼児教育への理解を停滞させている一因と考える。そこで、領域の枠組みを資質・能力の観点から再編し、要領上の用語の整合性を図ることにより、幼小双方の教師の理解を促進し、幼小の接続を推進するカリキュラムと指導方法の研究開発を行う。

- 令和6年度 [研究開発実施報告書 第一年次 \(令和7年2月\)](#)  
[研究開発実施報告書 \(根拠資料\) 第一年次 \(令和7年2月\)](#)

文部科学省研究開発学校

### 令和6年度 研究開発実施報告書

(根拠資料)

第一年次

#### 研究開発課題

幼稚園教育要領における5領域の構成と要領上の用語の不一致が、小学校教師の幼児教育への理解を停滞させている一因と考える。そこで、領域の枠組みを資質・能力の観点から再編し、要領上の用語の整合性を図ることにより、幼小双方の教師の理解を促進し、幼小の接続を推進するカリキュラムと指導方法の研究開発を行う。

令和7年2月

この部分は、「教育方針」のところから教育課程資料の該当部分を見ていただく方が探しやすい。

この部分以外の短期の指導計画やドキュメンテーション等については、サイドバーの「研究成果物」のところから(根拠資料)とついでの方の根拠資料で見ただけです。

## 目次

### 教育課程資料

神戸大学附属幼稚園	資質・能力定義 (令和6年4月) ……………	1
神戸大学附属幼稚園	入園から修了までのねらい一覧 (令和6年4月) ……	2
神戸大学附属幼稚園	教育課程及び月の指導計画と初等教育要領との 関連表 (令和6年4月11日) ……………	4

### 遊びや生活のまよりの計画

令和6年度	3歳児	「運動会リズム表現」 ……………	45
令和6年度	4歳児	「運動会リズム表現」 ……………	54
令和6年度	5歳児	「運動会リズム表現」 ……………	62
令和6年度	3歳児	「運動会かけっこ」 ……………	71
令和6年度	4歳児	「運動会玉入れ」 ……………	76
令和6年度	5歳児	「運動会リレー」 ……………	82
令和6年度	5歳児	「たき火」 ……………	89
令和6年度	5歳児	「お店屋さんごっこ」 ……………	96
令和6年度	4歳児	「こま回し」 (実践前) ……………	110
令和6年度	3歳児	「発表会」 (実践前) ……………	116
令和6年度	4歳児	「発表会」 (実践前) ……………	126
令和6年度	5歳児	「発表会」 (実践前) ……………	137
令和6年度	4歳児	「5歳進級に向けて」 (実践前) ……………	149
令和6年度	4歳児	「野菜の栽培」 (実践前) ……………	155
令和6年度	5歳児	「野菜の栽培」 (実践前) ……………	160

### 短期の指導計画 (令和6年6月4日の保育指導案)

3歳児	うめ1組	……………	168
3歳児	うめ2組	……………	174

こへだいがくふぞくようちえん  
**神戸大学附属幼稚園**  
 〒673-0878 兵庫県明石市山下町 3-4  
 TEL.078-911-8288



[トップページ TOP PAGE](#)
[沿革 HISTORY](#)
[教育方針 POLICY](#)
[幼稚園紹介 PROGRAM](#)
[入園案内 ENTRANCE](#)

### 教育方針 POLICY

**教育理念**  
 神戸大学附属幼稚園は、神戸大学の理念である「真摯・自由・協同」の精神に基づき、社会を創造する知性をもち、国際感覚にあふれた人材の育成をねらいとした教育を行い、心豊かな人づくりの推進に寄与することを基本理念とします。

**教育目標**  
 人間らしくよりよく生きるための行動の基礎を幼児自らに形成させる

※よい行動 自ら（個）が主体的に考えてよいと思う行動  
 他（集団）からみてよいと考えられる行動

- 目指す子ども像
- ①基本的な生活習慣を身につけ、健全な心身をもち、自ら考え、自信をもって行動しようとする子ども
  - ②様々ななかかわる中で、人の愛情や信頼関係を感じ、人の思いやりや考えに気づき、よりよい関係を築こうとする子ども
  - ③様々な事象に興味・関心を抱き、豊かな感性・創造性・思考力をもってかわらうとする子ども

### 教育課程の特色

教育課程の編成は、教育目標に向けて、具体的な子どもの実態から把握した学びの過程を見通して、ねらいや教育内容を設定しています。

- ①遊びを中心とした生活の中で、子ども達が自らの興味・関心に基づいて主体的に身近な環境にかかわることができるよう、「好きな遊びの時間」を重視します。指導にあたっては、ねらいや内容が総合的に達成されるよう子ども一人ひとりの実態を把握し、一人ひとりの特性や発達に応じます。
- ②幼稚園と小学校との学びの連続性を見通したねらいや教育内容、教育方法を工夫し、小学校との連携を図りながら、子どもの学びを様々な観点から捉え、育みます。
- ③幼児期は、身体の発達が著しく、運動諸機能の調和的発達が必要な時期であることから、園の環境の中で運動的な経験を豊かにし、健全な心身が育まれることを基本とします。
- ④基本的な生活習慣の習得を重視し、遊びや生活を視野に入れ、自ずと身につくようにします。
- ⑤家庭や地域との連携を含めた子ども全体の生活を視野に入れ、家庭との連携を十分に図ります。

### ◆教育課程資料◆ (PDF)

- [資質・能力の定義 \(令和7年1月現在\)](#)
- [入園から修了までのねらい一覧 \(令和7年3月現在\)](#)
- [教育課程及び月の指導計画と初等教育要領との関連表 \(令和7年3月現在\)](#)
- [遊びや生活のまとまりとしての計画](#)

### ◆教育課程資料◆ (PDF)

- [資質・能力の定義 \(令和5年4月現在\)](#)
- [資質・能力の定義 \(令和3年5月現在\)](#)
- (旧) [資質・能力の定義 \(令和元年12月現在\)](#)
- [入園から修了までのねらい一覧](#)
- [教育課程及び月の指導計画と初等教育要領との関連表](#)
- [遊びや生活のまとまりとしての計画](#)

## 神戸大学附属幼稚園 カリキュラムにおける観点（令和7年10月現在）

神戸大学附属幼稚園の資質・能力：生涯にわたってよりよく生きるために必要な心や体の働きであり、個別に取り出して育むものではなく、遊びや生活を通して総合的に育まれるものである。

神戸大学 附属幼稚園 の資質・能力	【資質・能力の具体的なまとめり 方向性	資質・能力の具体	方向性
人格形成の基礎となる資質・能力	【自分の生き方】 様々な関わり合いの中で、自分を見つめ、したいことやすべきことを自分で決め、よりよい生き方を目指そうとする	自ら決める・選ぶ	興味・関心をもったり、目的や目標を定めたりして、好きになって関わったり、その実現に向けてやり遂げようとしたりする
		充実感を得る	自分の頑張りや成長、思いが実現したことに、嬉しさや満足感、達成感を感じる
		気持ちをコントロールする	よりよい方向に向けて、自分の気持ちに折り合いをつけようとする
		自分のことを知る	自分に意識を向け、自分の思いや状態、性格、言動の意味などに気付いたり、それを認めたり大切にしようとしたりする
	【人とのつながり】 人と関わることを通して、他者の思いや考えに気付き、よりよい関係をつくろうとする	他者という喜びを感じる	他者と関わる心地よさや嬉しさ、よさを感じて、つながりを大切にしようとする
		他者のことを知る	他者に関心を持ち、思いや考え、個性を認めようとする
		自分のことを伝える	自分の思いや考えを伝えたいと思い、行動や言葉で伝えようとする
		他者のことを考えて行動する	他者に寄り添い、相手にとってよいと思うことをしようとする
		人と物事を進める	人と共通の目的や目標に向かって、自分にできることをしようとしたり、見通しをもって必要なことを決めたり、互いの役割を意識しながら責任を果たそうとしたりする
		健康を保つ	健康の保持・増進に関心を持ち、必要なことを考え、自分ができることをしようとする
知性につながる資質・能力	【健やかな身体】 身体の変化、周囲の状況に気付き、健康、安全に過ごそうとする	身を守る	自分の状態や周囲の状況に意識を向け、安全に過ごせるように考え、行動しようとする
		体の動きや感覚を磨く	体の感覚や動きに意識を向け、諸感覚を豊かにしたり、体を動かす楽しさやいろいろな動きの感覚を味わったり、状況に応じた体の使い方をしようとしたりする
		自然環境を見つめる	空や雲、土、天体などの自然環境に関心を持ち、その美しさや不思議さを感じたり、畏敬の念を抱いたりする
	【ものの探究】 自然やもの、事象への感覚を豊かにし、それらの性質や仕組みを探ろうとする	生き物・命を見つめる	動植物など命あるものに関心を持ち、その美しさや不思議さ、命の尊さを感じたり、大切にしようとしたりする
		事物・現象を捉える	身の回りのものの性質や特徴、ものやこと同士の関係性を感じたり、見出そうとしたり、捉えようとしたり、その面白さや不思議さを感じたりする
		数・量や形、空間を捉える	数・量や形、位置や向きなどの空間を感じて、関心をもったり意識を向けたりし、それらに対する感覚を豊かにする
		場や状況を整える	場や状況の快適さや心地よさを感じ、整えたり作り出したりしようとする
	【暮らしの創造】 生活や文化、社会に意識を向け、暮らしを豊かにしていくために、考え、行動しようとする	食を見つめる	食えることや食べ物を育てたり加工したりすることの楽しさを感じたり、様々な食材や料理に関心を持ち、食べようとしたりいろいろな味を楽しんだりする
		資源の活用を見つめる	物や時間、労力などの限りあるものに意識を向け、効率的で無駄のない使い方を考え、大切に扱おうとする
		社会とつながりをもつ	施設や働く人の役割、社会の仕組みに関心を持ち、自分の関わり方を考え、行動しようとする
		多様性を見つめる	多様な外見や性別、文化や価値観などに関心を持ち、理解を深めたり認めたりしようとする
	【感動・想像の表現】 思いやイメージが表されているものから思いを感じ取ったり、イメージを広げたり、自分らしく表すことを楽しんだりしながら、感性や創造性を豊かにする	色や形に表す	色への感覚を豊かにしたり、色や形、質感、それらによって表されたものを思いのままに感じたり、そこから想像を広げたり、色や形、質感によって表す楽しさを感じたりする
		音に表す	音への感覚を豊かにしたり、音によって表されたものを思いのままに感じたり、そこから想像を広げたり、音によって表す楽しさを感じたりする
		言葉に表す	語彙や記号、言葉のつながり、使い方を豊かに獲得したり、言葉によって表されたものを思いのままに感じたり、そこから想像を広げたり、言葉によって表す楽しさを感じたりする
		体や動きに表す	動作や表情、声の調子などによって表されたものを思いのままに感じたり、そこから想像を広げたり、動作や表情、声の調子などによって表す楽しさを感じたりする
		演出・構成する	設定や展開を思いのままに感じたり、色や形・音・言葉・体や動きによって表されたものや設定、展開が効果的に生かされていることを感じたり、表したり実現したりしたいことに応じてそれらを効果的に活用する楽しさを感じたりする

「考え方」は、「人格形成の基礎となる資質・能力」や「知性につながる資質・能力」と同時に発揮、伸長される。

考え方	方向性
比較する	対象を具体物やイメージなどと照らし合わせ、差異点や共通点を見付け出す
関連付ける	対象を具体物やイメージなどと照らし合わせ、結び付ける
分類する	観点をもって、まとまりに分ける
筋道立てる	論理を通して整理したり見通したりする
理由付ける	原因や理由、根拠を見付ける
具体化する	対象をより具体的に捉えたり表したりする
抽象化する	対象を共通の特徴でまとめて捉えたり表したりする
焦点化する	注目するところを絞り込む
評価する	観点をもって、対象への意見をもつ
多面的に見る	対象を多様な観点から捉える
批判的に考える	思考・判断に必要な考えや情報の確かさを疑う
総合する	複数の考えを基に、考えをまとめる
推論する	根拠を基に予想する
発想する	新たな考えを思い付いたり生み出したりする

### 意識しておきたい問題解決の思考のプロセス

